

U30世代の政治意識調査

2022.12.15

YOUTH THINKTANK

(一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN × 株式会社日本総合研究所)

調査概要	3
U30セグメンテーション	9
提言 U30の政治参加・投票率を高めるための打ち手	18
調査結果詳細 グループ別クロス集計	26

調査概要

調査仕様

日本国籍を持つ30歳未満の男女を対象に、第26回参院選の投票行動、および、社会課題・政策課題に対する意識や政治意識などについてWebアンケート調査を実施した。

調査名	U30政治意識調査																											
調査目的	U30の政治意識の現状を把握するとともに、U30を政治意識でセグメンテーションし、セグメントごとの特徴を把握して、U30の投票率向上に向けた国への提言、および、YOUTH THINKTANKのアクション検討の材料とする。																											
調査対象者	日本国籍を持つ日本在住の18～29歳男女																											
回答者数・割付	5,000人 ・総務省統計局「人口推計（2021年10月1日現在）」の日本人人口構成比に合わせて、性別、年代別、選挙区分（1人区／複数区）を加味のうえ割り付けた。 ・ただし18～19歳は、15～19歳人口を按分して算出した人口を用いた。 ・複数区は、〔6人区〕東京都、〔4人区〕埼玉県、神奈川県、愛知県、大阪府、〔3人区〕北海道、千葉県、兵庫県、福岡県、〔2人区〕茨城県、静岡県、京都府、広島県。一人区は前述以外の県。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>1人区</th> <th>複数区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">男性</td> <td>18～19歳</td> <td>150</td> <td>253</td> </tr> <tr> <td>20～24歳</td> <td>339</td> <td>731</td> </tr> <tr> <td>25～29歳</td> <td>336</td> <td>745</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">女性</td> <td>18～19歳</td> <td>140</td> <td>241</td> </tr> <tr> <td>20～24歳</td> <td>313</td> <td>714</td> </tr> <tr> <td>25～29歳</td> <td>314</td> <td>724</td> </tr> </tbody> </table>					1人区	複数区	男性	18～19歳	150	253	20～24歳	339	731	25～29歳	336	745	女性	18～19歳	140	241	20～24歳	313	714	25～29歳	314	724
		1人区	複数区																									
男性	18～19歳	150	253																									
	20～24歳	339	731																									
	25～29歳	336	745																									
女性	18～19歳	140	241																									
	20～24歳	313	714																									
	25～29歳	314	724																									
設問数	スクリーニング4問+19問（マトリクス含む）																											
調査手法	インターネットリサーチ																											
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 第26回参議院議員通常選挙の投票行動 過去に行われた選挙の投票行動 期日前投票・不在者投票の認知・利用経験 社会課題・政治に対する意識・行動 ふだんの関心事・情報収集源 																											
調査時期	2022年6月22日（水）（参院選公示日）～6月26日（日）																											

調査項目

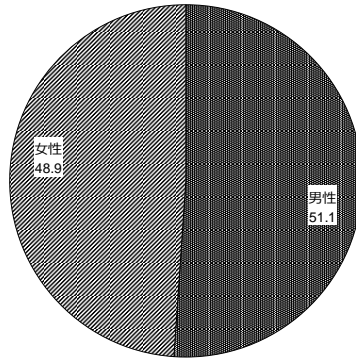
スクリーニング設問→本設問の流れで聴取。本調査では、投票行動に関する設問を10問、社会課題・政治に対する意識・行動に関する設問を3問設定し、属性設問を加えて19問を設定。



回答者属性

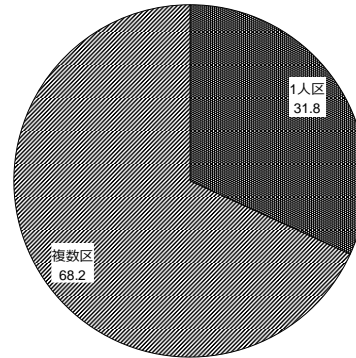
SQ1. 性別 (単回答)

(n=5000)



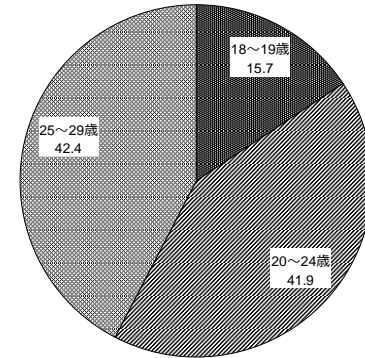
SQ2. 選挙区 (単回答)

(n=5000)



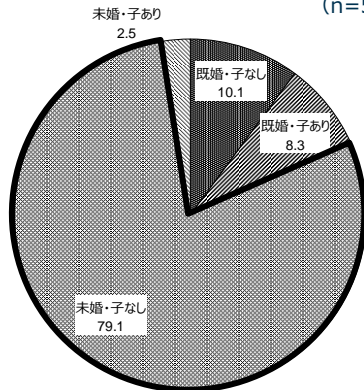
SQ3. 年齢 (単回答)

(n=5000)



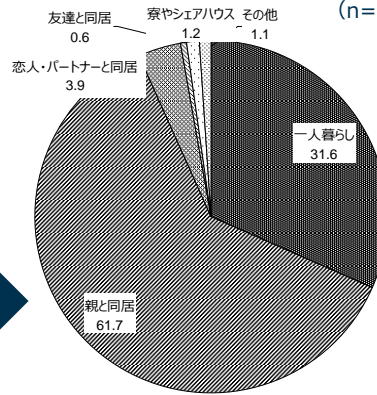
Q15. 婚姻状況 (単回答)

(n=5000)



Q16. 世帯構成 (単回答) Q15で未婚・子なしのみ

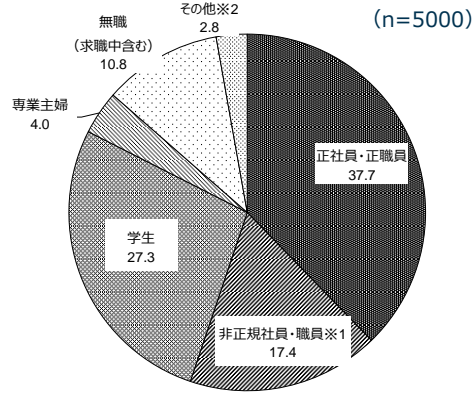
(n=3956)



未婚・子なし

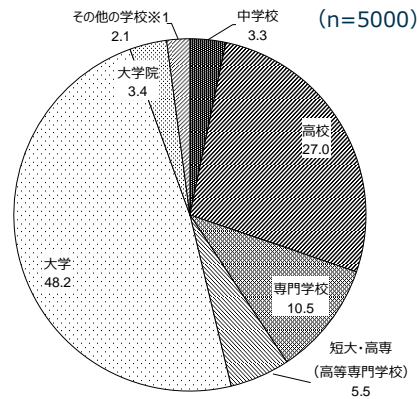
回答者属性

Q17. 職業 (単回答)



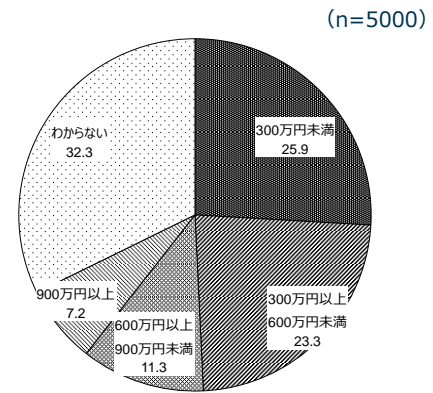
※1：パート、アルバイト（学生アルバイトを除く）、
契約社員、嘱託社員、派遣会社の派遣社員
※2：会社の経営者、役員、自営業主、自由業、フリーランス、クラウドワーカー、その他

Q18. 最終学歴 (単回答)



※1：高等専修学校、各種学校など

Q19. 世帯年収※1 (単回答)



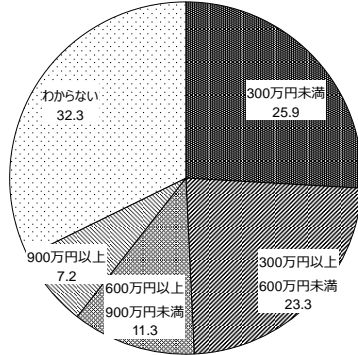
※1：「未婚・子なし」回答者の61.7%は親と同居している。「わからない」という回答が多いのは、親の年収を把握していないためと考えられる（次頁参照）

(%)

回答者属性

Q19. 世帯年収（単回答）（再掲）

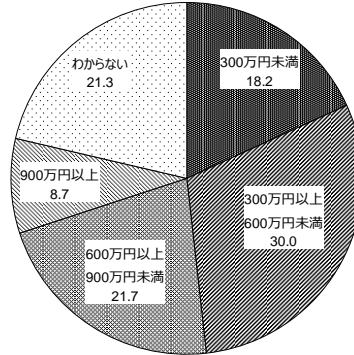
(n=5000)



Q19. 世帯年収（単回答）

既婚・子なし

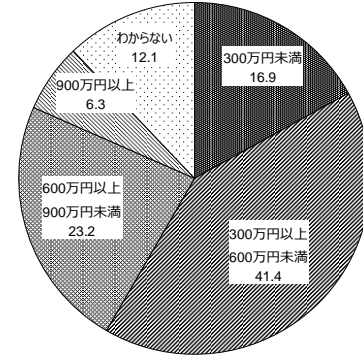
(n=506)



Q19. 世帯年収（単回答）

既婚・子あり

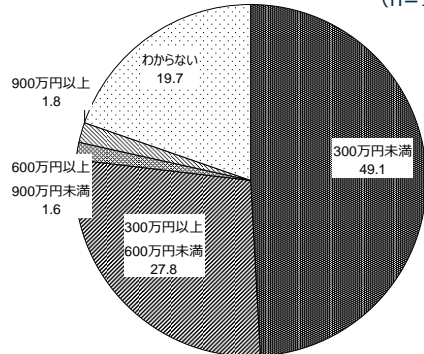
(n=413)



Q19. 世帯年収（単回答）

未婚・子なし（一人暮らし）

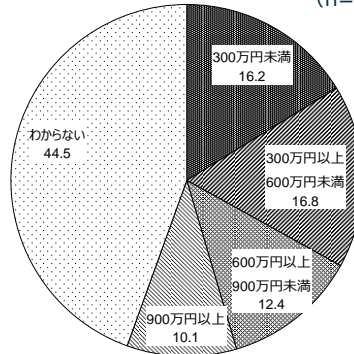
(n=1250)



Q19. 世帯年収（単回答）

未婚・子なし（親と同居）

(n=2441)



(%)

U30セグメンテーション

価値観によるグループ抽出

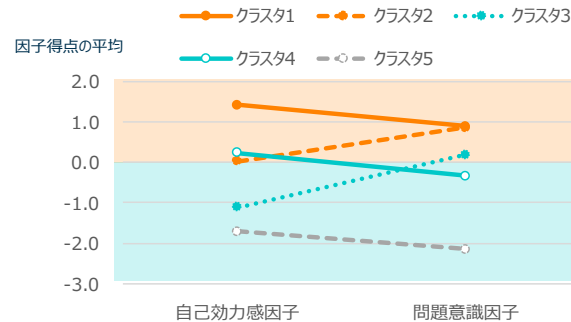
社会課題・政治に対する意識・行動に関する質問への回答を用いて因子分析を行った結果、自己効力感に関わるもの（自己効力感×因子）と社会的な問題意識に関わるもの（問題意識因子）の2因子を抽出。この2因子の因子得点による分析を行った結果、5グループを導出し、その特性から次頁のように命名。

価値観の抽出（因子分析の結果*）

	自己効力感 因子	問題意識 因子
社会課題の解決に向けて行動したことがある	0.816	-0.111
国や地方の政治の将来に期待を持てる	0.813	-0.260
国や社会は、自分の力で変えられると思う	0.811	-0.118
オンライン署名やパブコメ、デモへの参加、陳情などの政治参加に関心がある	0.765	-0.063
社会課題の解決は自分にもできると思う	0.757	0.012
国や地方の政治の現状に満足している	0.751	-0.261
政治家から直接話を聞いたり、政治家に自分たちの意見を届けたりしたいと思う	0.676	0.132
将来の国や地域の担い手として積極的に政治や政策決定に参加したいと思う	0.655	0.189
国や地方の政治に関して、家族や友人と話すことがある	0.636	0.129
国や地方の政治に関する情報（政治ニュース、政治関連のSNSなど）をチェックしている	0.555	0.253
SDGs（2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）に関心がある	0.541	0.197
日本の憲法9条の改正に関心がある	0.509	0.273
環境や貧困、ジェンダー、不平等といった社会問題の解決に関与したいと心から思う	0.468	0.331
日本社会には解決すべきたくさん課題があると思う	-0.183	0.896
子供や若者が対象となる政策や制度については子供や若者の意見を聴くようにすべきだと思う	-0.059	0.805
自分の将来に漠然とした不安がある	-0.116	0.804
国の政策には、国民の考えや意見が反映されていないと思う	-0.056	0.790
日本には、国や社会を変えてくれると期待もてる政治家がいないと思う	-0.103	0.787
今の自分の状況に不満がある	-0.004	0.678
あなたが将来受けられる社会保障（年金・医療・介護など）に関心がある。	0.152	0.652
政治では、国や社会を変えられないと思う	0.105	0.452
日本と外国の経済政策の違いに関心がある	0.397	0.449

数値の数値は因子負荷量。因子抽出法：最尤法、回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法を採用

グループの導出



グループ

グループ	自己効力感因子	問題意識因子
グループ1	++（高）	++（高）
グループ2	±0（中）	++（高）
グループ3	--（低）	+（やや高）
グループ4	+（やや高）	-（やや低）
グループ5	--（低）	--（低）

*自己効力感(Self-efficacy) Bandura(1997)は、ある行動を遂行することができる、と自分の可能性を認識していることを自己効力感と呼び、自己効力感が強いほど実際にその行動を遂行できる傾向にあると述べている。

（出所）江本リナ「自己効力感の概念分析」日本看護科学会誌、2000、20巻、2号、p. 39-45

本調査では、自分の力で社会や政治を変えられる、と認識している状態を指す。

グループ分布

- 特定の何かに関心を持つ人の割合が低い。一方で、将来に不安を抱える人の割合も低い。
- 自己効力感^{自己効力感}はふあんシカと同程度で決して低くはないが、社会に対する問題意識^{問題意識}が低い人が多い。
- 20代前半の割合が高く、正社員の割合はかえなキヤットに次いで高い。

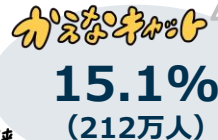


問題意識
低

- 社会への関心は極めて低い人が多い。
- 社会への問題意識、自己効力感ともに極めて低い人が多い。
- 職業は無職の割合が高く、最終学歴は高校、その他学校（高等専修学校など）の割合が高い。



自己効力感
高

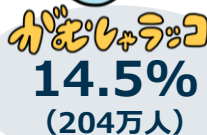


- 幅広いピックに関心を持つが、「マンガ・アニメ」「ゲーム」「美容」の関心度順位が他グループに比べて低く、「日本の将来」の関心度が特に高い。
- 社会を変えないと、という思いが強く、政治参加の意欲も高い。
- 職業は正社員、学生の割合が高く、最終学歴は大学の割合が高い。



- 関心の幅広さと高さで群を抜く。「日本の将来」にも高い関心を持つが、将来に不安を抱えている人も多い。
- 社会に対する問題意識は高いが、自己効力感^{自己効力感}は高くない人が多い。
- 職業は正社員の割合が低く、最終学歴は大学の割合が高い。

問題意識
高








- 「働き方・就職」「お金」「妊娠・出産・子育て」への関心は高いが、それ以外への関心は平均並。
- 社会に対する問題意識は高いが、自分が社会を変えられるとは思っていない。
- 社会に出ている年齢の20代後半の割合が高いが、職業は無職や専業主婦の割合が高い。

自己効力感
低

*グループの特徴は、全体に比べて統計上有意な差があった点について主に言及している。括弧内は総務省統計局「人口推計（2021年10月1日現在）」を基に割り戻した18~29歳の推定人口

グループ別投票意向

※「投票する／期日前投票で投票した」

グループ名	2022年参院選に 投票する※	2022年参院選に 投票する※+おそらく投票する
 かえなキヤット	50.1%	81.8%
 ふあんシカ	36.7%	72.9%
 がむしゃラッコ	18.3%	38.9%
 らっカンガルー	21.7%	48.2%
 むきりよクマ	8.4%	21.4%

かえなキヤット (全体の15.1%)



職業は正社員・正職員や学生、最終学歴は大学の割合が高い。また、「家族と政治の話をする事があった」割合が高い。社会に対する問題意識、自己効力感ともに高いが、確実に投票する割合は約半数と決して高くない。投票しない理由は「今住んでいる市区町村で投票することができないから」の割合が高い。

無印： n=754 (全体 n=5,000) * : n=68 (全体 n=1,221)

プロフィール

職業は正社員・正職員、学生の割合が高く、最終学歴は大学の割合が高い。

職業

「正社員・正職員」

41.9% (全体 : 37.7%)

「学生」

33.6% (全体 : 27.3%)

最終学歴 「大学」

57.7% (全体 : 48.2%)

「家族と政治の話をする事があった」割合が高い。

家族と政治の話をする事があった

30.2% (全体 : 15.3%)

幅広いトピックに関心を持つが、「マンガ・アニメ」「ゲーム」「美容」の関心度順位が他グループに比べて低く、「日本の将来」の関心度が特に高い。

現在、関心を持っていること 「日本の将来」

40.5% (全体 : 23.4%)

政治参加の状況

社会に対する問題意識や、自己効力感が高い人が多い。社会課題解決や政治活動への参加意欲が高い人が多い。

価値観の因子得点 詳細はP10参照



問題意識 **高** (0.89)

日本社会には解決するべき
たくさんの課題があると思う

88.2% (全体 : 58.4%)



自己効力感 **高** (1.42)

国や社会は、自分の力で変えられると思う

73.7% (全体 : 20.6%)

環境や貧困、ジェンダー、不平等といった社会問題の解決に関与したいと心から思う

83.4% (全体 : 34.2%)

オンライン署名やバブコメ、デモへの参加、陳情などの政治参加に関心がある

75.5% (全体 : 20.0%)

22参院選の投票意向は相対的に高いが、明確に投票意向を持つ割合は5割程度。現居住地で投票できないことを投票しない理由に挙げる人が多い。

投票意向あり

「投票する/期日前投票で投票した」

50.1% (全体 : 27.3%)

投票しない理由*

「今住んでいる市区町村で投票することができないから」

25.0% (全体 : 8.4%)

ふあんシカ (全体の20.2%)



正社員・正職員の割合が低く、最終学歴は大学の割合が高い。将来に不安を抱える割合が高く、広く社会に関心を持つ。社会に対する問題意識は高いが、自己効力感は高くない。「自分の考えに近い政策を訴えている」や「自分と同じような世代のことを特に考えている」を候補者・政党の選択基準にしている割合が高い。

無印: n=1,011 (全体 n=5,000) * :n=737 (全体 n=2,723)

プロフィール

正社員・正職員の割合が低く、
最終学歴は大学の割合が高い。

職業「正社員・正職員」

31.9% (全体: 37.7%)

最終学歴「大学」

55.3% (全体: 48.2%)

将来に不安を抱える割合が高い。

「自分の将来に漠然とした不安がある」

91.1% (全体: 55.5%)

関心の幅広さと高さで群を抜く。

「お金」への関心が最も高く「自分の将来」が続く。
「日本の将来」に関心を持つ人の割合も最も高い。

現在、関心を持っていること

多くの項目 (19/22) で関心度トップ

「自分の将来」

72.6% (全体: 42.0%)

「日本の将来」

44.5% (全体: 23.4%)

政治参加の状況

社会に対する問題意識は高いが、自己効力感は高くない人が多い。

価値観の因子得点 詳細はP10参照



問題意識 **高** (0.86)

日本社会には解決するべき
たくさんの課題があると思う

96.7% (全体: 58.4%)



自己効力感 **中** (0.04)

国や社会は、自分の力で変えられると思う

12.9% (全体: 20.6%)

社会課題の解決は自分にもできると思う

22.7% (全体: 23.6%)

22参院選の投票意向は相対的には高い。

自分や身近な人に関連する政策を掲げる候補者・政党を支持する割合が高い。

投票意向あり

「投票する/期日前投票で投票した」

36.7% (全体: 27.3%)

投票先を選ぶ基準*

「自分の考えに近い政策を訴えている候補者・政党」

64.7% (全体: 46.5%)

「自分と同じような世代のことを特に考えている候補者・政党」

36.4% (全体: 24.4%)

がむしゃラッコ (全体の14.5%)



社会に出ている年齢の20代後半の割合が高いが、職業は無職や専業主婦の割合が高い。自分の将来や経済状況を中心に、社会へ関心を持つ。社会に対する問題意識は高いが、自己効力感は著しく低い。投票意向は低く、投票しない理由からは選挙に対する基本的な知識が欠如している可能性がうかがわれる。

無印： n=727 (全体 n=5,000) * :n=311 (全体 n=1,221)

プロフィール

20代後半の割合が高い。
職業は無職や専業主婦の割合が高い。

年齢「25~29歳」

49.4% (全体：42.4%)

職業

「無職（求職中含む）」

17.5% (全体：10.8%)

「専業主婦」

7.2% (全体：4.0%)

「働き方・就職」「お金」「妊娠・出産・子育て」への
関心は高いが、それ以外への関心は平均並。

ふだん関心を持っているトピック（政治・社会課題関連）

「働き方・就職
（賃金、ワークライフバランスなど）」

42.5% (全体：35.0%)

「妊娠・出産・子育てがしやすい
社会環境の整備」

27.0% (全体：23.6%)

現在、関心を持っていること

「お金（給料・小遣い・投資など）」

71.0% (全体：53.2%)

政治参加の状況

社会に対する問題意識は高いが、自己効力感は著しく低い人が多い。

価値観の因子得点 詳細はP10参照



問題意識 **やや高** (0.20)

日本社会には解決するべき
たくさんの課題があると思う

89.4% (全体：58.4%)



自己効力感 **低** (-1.12)

国や社会は、自分の力で変えられると思う

1.9% (全体：20.6%)

22参院選の投票意向は低く、
投票しない理由からは選挙に対する基本的な知識が欠如している可能性が窺われる。

投票意向あり

「投票する／期日前投票で投票した」

18.3% (全体：27.3%)

投票しない理由*

「選挙にあまり関心がないから」

52.1% (全体：32.6%)

「選挙によって政治はよくなると思うから」

24.4% (全体：12.4%)

「自分のように政治のことがよくわからないものは投票しない方がよいと思うから」

20.9% (全体：10.6%)

らっカンガルー (全体の40.9%)



正社員・正職員の割合はかえなキヤットに次いで高い。将来に不安を抱える割合が低く、社会への関心は低い。自己効力感を決して低くはないが、社会に対する問題意識が低い。

無印： n=2,046 (全体 n=5,000)

プロフィール

20代前半の割合が高く、
職業は正社員・正職員の割合が高い。

年齢「20~24歳」

43.6% (全体：41.9%)

職業「正社員・正職員」

40.2% (全体：37.7%)

将来に不安を抱える割合が低い。

「自分の将来に漠然とした不安がある」

27.4% (全体：55.0%)

特定の何かに関心を持つ人の割合が低い。

ふだん関心を持っているトピック (政治・社会課題関連)

全ての項目で関心度平均未満

現在、関心を持っていること

全ての項目で関心度平均未満

政治参加の状況

自己効力感はふあんシカと同程度で決して低くはないが、
社会に対する問題意識が低い人が多い。

価値観の因子得点 詳細はP10参照



問題意識 **やや低** (-0.34)

日本社会には解決すべき
たくさんの課題があると思う

29.0% (全体：58.4%)



自己効力感 **やや高** (0.24)

国や社会は、自分の力で変えられると思う

15.8% (全体：20.6%)

3割近い人が22参院選があることすら知らず、投票意向も低い。

22参院選の認知
「選挙があることを知らなかった」

27.9% (全体：22.7%)

投票意向あり
「投票する/期日前投票で投票した」

21.7% (全体：27.3%)

むきりよクマ (全体の9.2%)



職業は無職の割合が高く、最終学歴は高校、その他学校（高等専修学校など）の割合が高い。社会への関心は極めて低い。社会に対する問題意識も自己効力感も極めて低い。選挙の認知、投票意向ともに極めて低い。

無印： n=462 (全体 n=5,000)

プロフィール

職業は無職の割合が高く、
最終学歴は高校、その他の学校の割合が高い。

職業「無職（求職中含む）」

20.1% (全体：10.8%)

最終学歴 「高校」 「その他の学校の他の学校
（高等専修学校、各種学校など）」

34.2% (全体：27.0%) **7.8%** (全体：2.1%)

いずれのことにも関心は極めて低い。

ふだん関心を持っているトピック（政治・社会課題関連）

全ての項目で関心度最低値

現在、関心を持っていること

全ての項目で関心度最低値

政治参加の状況

社会に対する問題意識も自己効力感も極めて低い人が多い。

価値観の因子得点 詳細はP10参照



問題意識 **低** (-2.15)

日本社会には解決するべき
たくさんの課題があると思う

7.4% (全体：58.4%)



自己効力感 **低** (-1.71)

国や社会は、自分の力で変えられると思う

1.1% (全体：20.6%)

22参院選の認知自体が低く、過去の選挙の認知も著しく低い。
結果として、投票意向も極めて低い。

22参院選の認知
「選挙があることを知らなかった」

48.5% (全体：22.7%)

投票意向あり
「投票する／期日前投票で投票した」

8.4% (全体：27.3%)

22参院選より前の選挙の有無
「実施されたかどうか分からない」

61.7% (全体：30.9%)

提言

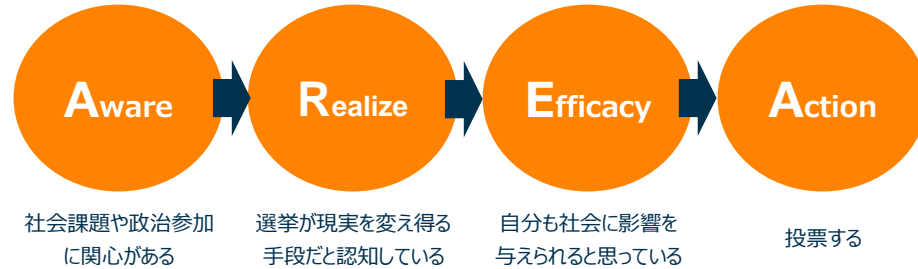
U30の政治参加・投票率を高めるための打ち手

グループ別にみる投票のボトルネック

投票行動プロセス別にみると、グループごとにボトルネックとなっているプロセスが異なる。以降では、グループごとのボトルネックから示唆される施策案を検討する。

(むきりよクマは働きかけによって動かすのが難しいグループであると考えられ、比率も1割未満であるため、ここでは施策案は検討しない)

投票行動プロセス イメージ



		問題意識因子	Q4.投票しない理由* 選挙によって政治はよくなると思うから	自己効力感因子	Q2.投票意向 投票する／期日前投票で投票した
かえなキヤット	15.1% (754s)	++ (高)	7.4%	++ (高)	50.1%
ふあんシカ	20.2% (1,011s)	++ (高)	18.7%	±0(中)	36.7%
がむしゃラッコ	14.5% (727s)	+ (やや高)	24.4%	-- (低)	18.3%
らっかんガルー	40.9% (2,046s)	- (やや低)	5.4%	+ (やや高)	21.7%
むきりよクマ	9.2% (462s)	-- (低)	9.0%	-- (低)	8.4%

*投票意向がない人が対象。
各グループのサンプル数は以下。
かえなキヤット：68s
ふあんシカ：139s
がむしゃラッコ：311s
らっかんガルー：503s
むきりよクマ：200s

かえなキヤットから示唆される施策案

かえなキヤットのボトルネックは「Action（投票する）」。U30にも投票しやすい環境になるよう、投票手続きの簡素化、インターネット投票の導入など**投票システムの改革**を行う。



投票のボトルネック



〔着目すべき調査結果〕

- 投票に行かない主な理由としては、「今住んでいる市区町村で投票することができないから」（25.0%）と「忙しい、時間がない」（25.0%）がトップに挙がった。
- ➡これらの事実から、「不在者投票の制度を知らない」「知っていても登録の手間を嫌ってやらない」「投票所に行く時間がない」などが投票行動の阻害要因となっていると考えられる。



施策の到達目標

U30が投票しやすい環境が整う

施策1：
不在者投票の認知拡大と
手続きの簡素化

- 不在者投票の認知拡大を図るための広報活動（認知率：かえなキヤット80.5%、全体54.8%）
- 制度や手続きをわかりやすく紹介したウェブサイトを作り、「選挙 住民票ない」などのキーワード検索からたどり着けるようにする。
- 手続きを簡素化・デジタル化して、不在者投票のハードルを下げる。

施策2：
投票所アクセスの改善

- 期日前投票所を駅前やショッピングモールなど、アクセスの良い場所に設置すると共に、早朝や深夜でも投票できるようにするなど、勤労者が投票しやすい環境を整備する

施策3：
インターネット投票（スマホ投票）
の導入

- 「忙しい、時間がない」という人の投票率を高めるには、インターネットによる投票（スマホ投票）をできるようにすることが、効果的な打ち手となる。
- 住民票を移していないことを理由に投票しない人も、インターネット投票が実現すれば、投票するようになることが期待される。

ふあんシカから示唆される施策案

ふあんシカのボトルネックは「Efficacy（自分も社会に影響を与えられると思っている）」。「同世代の候補者が出るよう選挙制度改革を行うと共に、政治家とU30が対話できる場をつくるなど、政治の場にU30の存在・意見が代表されるための**土壌づくり**を行う。



投票のボトルネック



〔着目すべき調査結果〕

- 投票先を選ぶ基準として、「自分の考えに近い政策を訴えている候補者・政党」（64.7%）や「自分と同じような世代のことを特に考えている候補者・政党」（36.4%）を挙げる人の割合が全グループの中で最も高い。
- ➡自己効力感「かえなきゃット」ほど高くないが、社会や政治への関心がある「ふあんシカ」は、自分の声を代弁し、自分に代わって社会を変えてくれる政治家を求めていると考えられる。



施策の到達目標

U30の存在・意見が代表される 政治の場になる

施策4：
U30が選挙に出やすくする
ための選挙制度の見直し

- 被選挙権が付与される年齢の引き下げ（選挙権同様18歳に）
- ただし、「地盤・看板・カバン」がないと受からないと言われている今の選挙の仕組みのままでは、多様な若者が選挙に出てくることは期待できない。このため、衆院で300万円、参院で600万円の選挙供託金を大幅に引き下げる必要がある。インターネット投票を導入すれば選挙実施にかかる費用の削減も期待できることから、インターネット投票の導入とセットで、供託金引き下げを行う。

施策5：
政治家がU30の声に
耳を傾ける場の創出

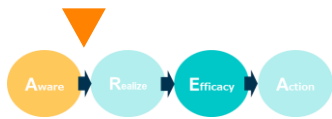
- デジタルツールも活用しながら、U30世代の声や実際の姿が政治家に届くための回路を構築すると共に、U30世代が政治家と直接対話できる場をつくる。

がむしゃラッコから示唆される施策案

がむしゃラッコのボトルネックは「Realize（選挙が現実を変え得る手段だと認知している）」。U30が選挙を自分達が直面している状況を変え得る手段だと思えるようになるには、U30が直面している状況が**政策課題**として取り上げられるようになることが必要。



投票のボトルネック



〔着目すべき調査結果〕

- 投票しない理由としては、「選挙にあまり関心がないから」（52.1%）、「投票所に行くのが面倒だから」（42.4%）、「選挙によって政治はよくなると思うから」（24.4%）と答える人が他に比べて突出して高い。
- ➡選挙という制度に対してそもそも期待していないことが分かる。
- ・「わたし一人が投票してもなくても世の中は変わらないと思うから」（28.9%）と答える人も他に比べて多い。
- ➡社会課題への関心はあるが、自己効力感が低いという特性が投票行動を抑制していることがうかがわれた。
- ・「自分のように政治のことがよくわからないものは投票しないほうがよいと思うから」（20.9%）を投票しない理由に挙げている人の多さも群を抜いている。
- ➡選挙や政治に対する知識の不足感が投票行動の妨げになっていることが推察される。



施策の到達目標

施策6：
U30世代にとって切実な
テーマを政府の重点課題と
位置付ける

施策7：
政治参加意欲を育てる
高校教育の充実

選挙が自分達が置かれた状況を変え得る 手段だとU30が認知できるようになる

- ・社会課題に対する関心は高いのに選挙に期待せず、投票行動に結びつかないのは、自分達にとって切実な問題が選挙の争点になることの少なさが原因と考えられる。
- ・「がむしゃラッコ」の関心が高い「就職・働き方（賃金、ワークライフバランス）」「妊娠・出産・子育てがしやすい社会環境の整備」などを重点的な政策課題と位置付け、それを争点にした選挙が行われるような仕掛けが求められる。
- ・政治参加意欲を育てるための教育プログラムを考案して高校教育に取り入れる。具体的には、選挙や政治に関する基本的な知識を授けると共に、同世代がこれから直面するであろう状況や、今、人々が直面している困難の背後にある社会問題について知り、それを解決するためにどのような手立てがあるかを考える機会とする。

らっカンガルーから示唆される施策案

らっカンガルーのボトルネックは「Aware（社会課題や政治参加に関心がある）」。同世代が抱える問題を自分事として捉え、社会課題や政治参加に関心を持つよう、**教育や啓発活動の充実**を図る。



投票のボトルネック



〔着目すべき調査結果〕

- 投票しない理由として、「投票所に行くのが面倒だから」（23.3%）や「忙しい、時間がないから」（20.9%）が上位に挙がった。それらに対しては、「かえなキャット」の項で示した施策案（2）（3）が投票率改善に寄与する可能性がある。
 - 一方で、「選挙にあまり関心がないから」（21.9%）や「わからない」（18.1%）も投票しない理由の上位に挙がっており、投票を容易にするだけでは、投票率が上がらない可能性も高い。
- ➡「らっカンガルー」は、社会課題や政治に対する関心がおしなべて低いが、かと言って大きな不満を政治に感じている様子もない。そうしたことから、現状に満足していて、問題意識を持つ必要がない状態であることも示唆される。



施策の到達目標

U30が同世代が抱える問題を自分事として捉えられるようになる

施策7：
政治参加意欲を育てる
高校教育の充実（再掲）

- 政治参加意欲を育てるための教育プログラムを考案して高校教育に取り入れる。具体的には、選挙や政治に関する基本的な知識を授けると共に、同世代がこれから直面するであろう状況や、今、人々が直面している困難の背後にある社会問題について知り、それを解決するためにどのような手立てがあるかを考える機会とする。

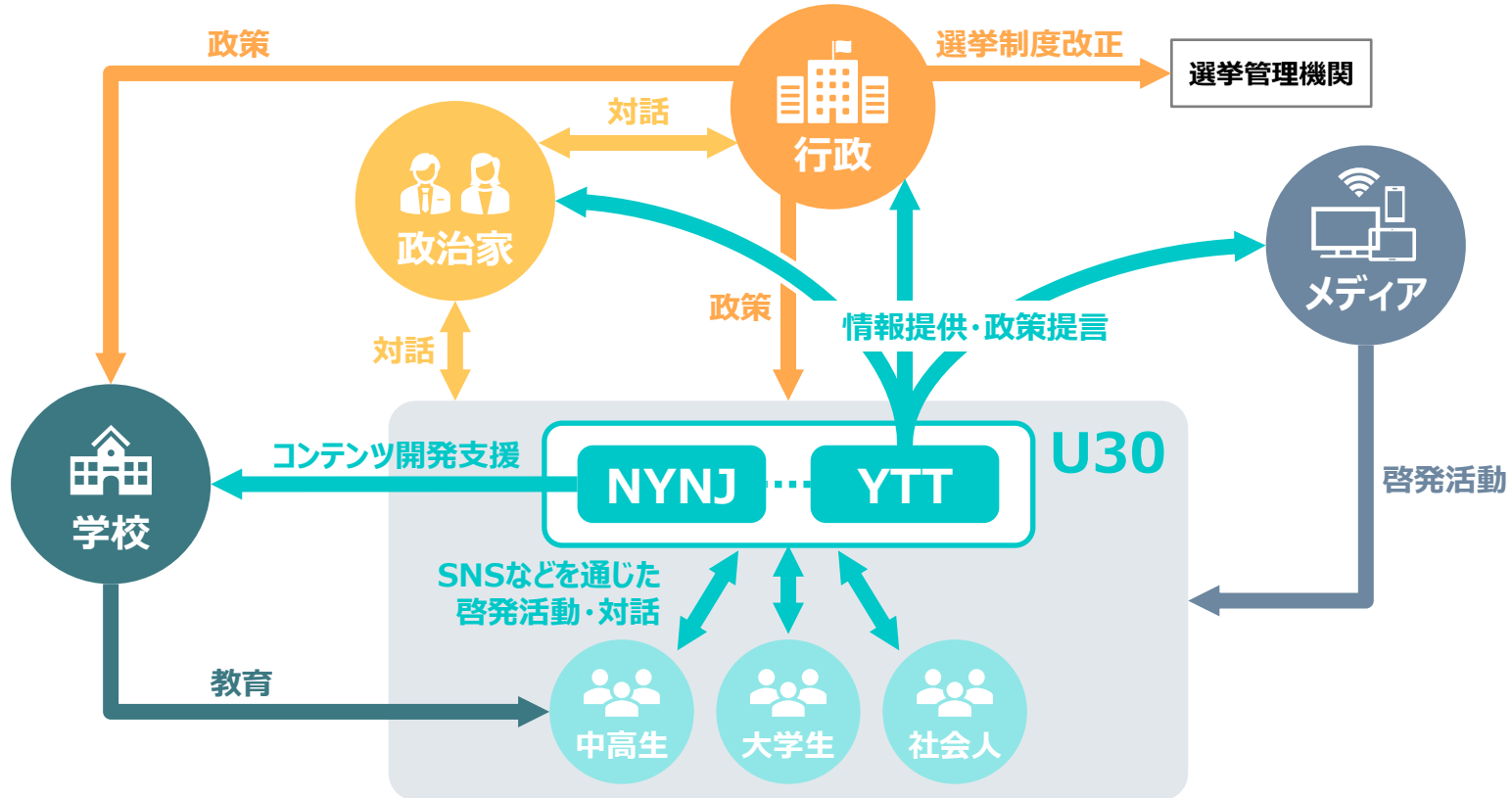
施策8：
上から目線の一方通行にならない情報提供活動

- 関心を持っていない人に関心を持ってもらうのは非常に難しく、上から目線の一方通行の情報発信や啓発活動では、まず届かない。同世代の目線で、かつ、「らっカンガルー」が情報収集源としているテレビ、YouTube、SNSなどの特性に応じた表現と内容での情報提供活動を行う。

施策案と当事者の関係

施策の到達目標	アクションの当事者	施策案		施策分類
U30が投票しやすい環境が整う	自治体の 選挙管理委員会 (総務省)	1	不在者投票の認知拡大と手続きの簡素化	システム (ハード)
		2	投票所アクセスの改善	
		3	インターネット投票（スマホ投票）の導入	
U30の存在・意見が代表される 政治の場になる	政治家 総務省	4	U30が選挙に出やすくするための選挙制度の見直し	カルチャー (ソフト)
		5	政治家がU30の声に耳を傾ける場の創出	
選挙が自分達が置かれた状況 を変え得る手段だと U30が認知できるようになる	YOUTH THINKTANK	6	U30世代にとって切実なテーマを政府の重点課題と位置付ける	政策
		7	政治参加意欲を育てる高校教育の充実	
U30が同世代が抱える問題を 自分事として捉えられるようになる	U30 (NYNJ) 文科省	8	上から目線の一方通行にならない情報提供活動	教育

施策とステークホルダーの関係性



調査結果詳細

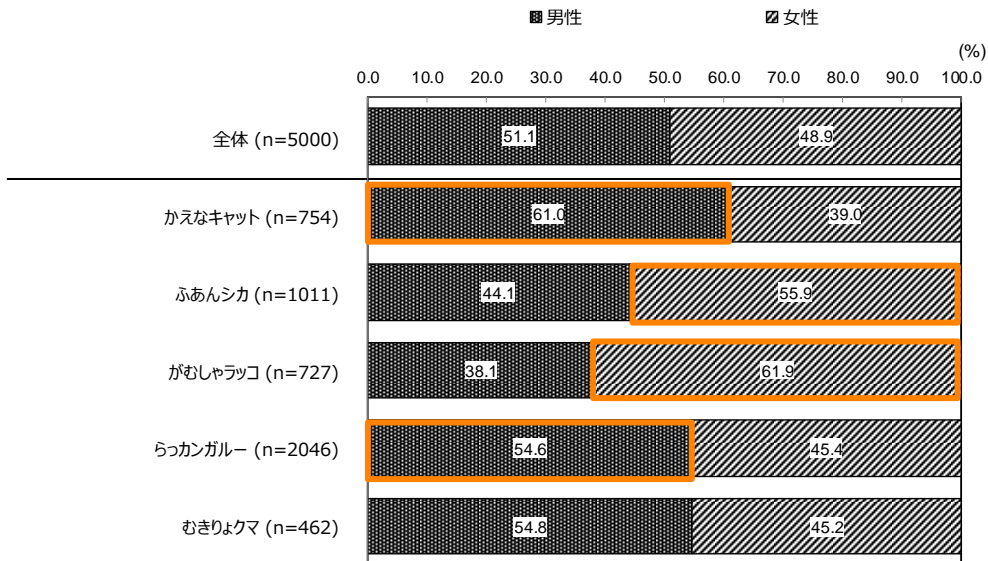
グループ別クロス集計

*グループを軸としたクロス集計表を作成し、それに対して χ^2 検定を行った。クロス集計表に対して有意な χ^2 値が得られた場合は、どのセルで有意に高いか低いかを把握するために下位検定として残差分析を適用した。以降の結果では、この分析過程で有意となった比率の高・低を中心に言及している。なお、有意水準には5%を採用している

性別

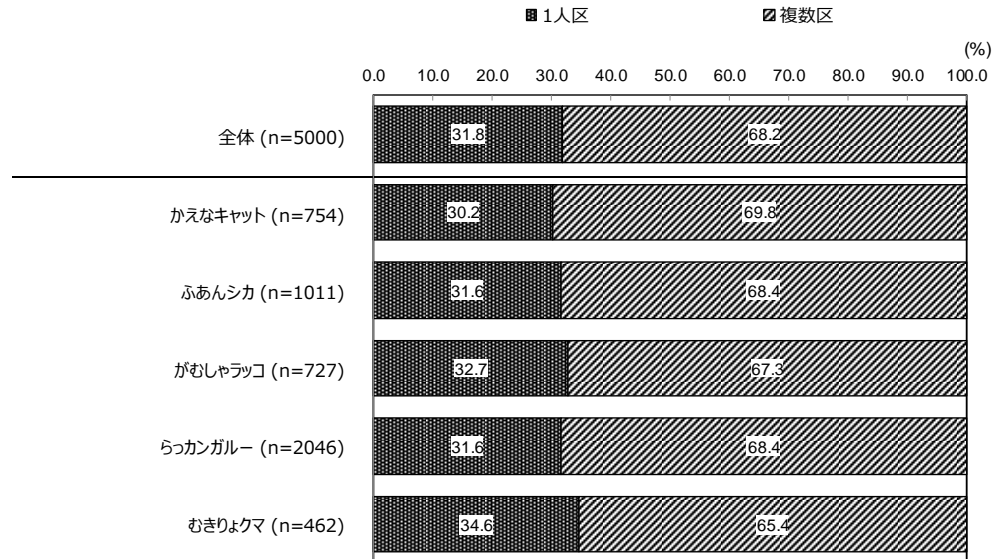
かえなキャットとらっカンガルーでは「男性」の割合が、ふあんシカとがむしゃラッコでは「女性」の割合が高い。

SQ 1. あなたの性別をお答えください。(単一回答)



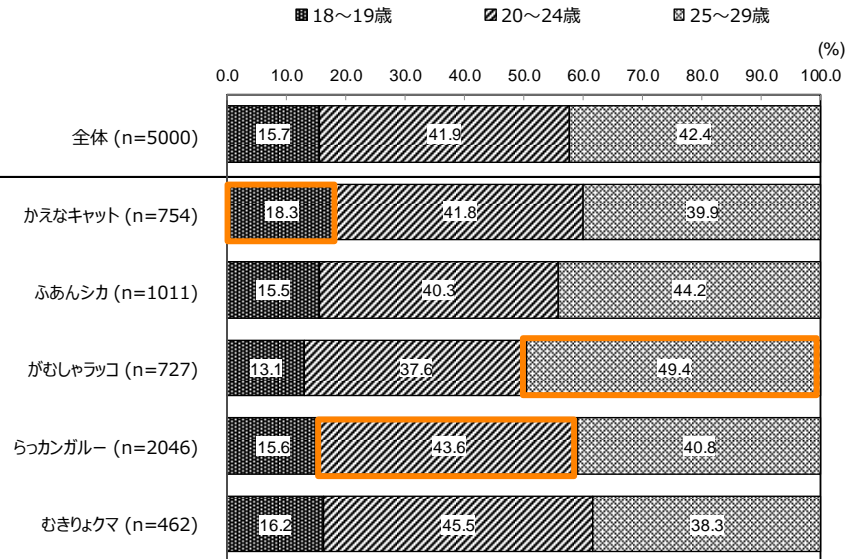
全体では約7割が複数区に居住するが、この割合はグループによって明確な違いはない。

SQ2. あなたがお住いの都道府県をお答えください（単一回答）



かえなキャットでは「18～19歳」の割合が、らっカンガルーでは「20～24歳」の割合が、がむしゃラッコでは「25～29歳」の割合が高い。
がむしゃラッコはほぼ半数が「25～29歳」である。

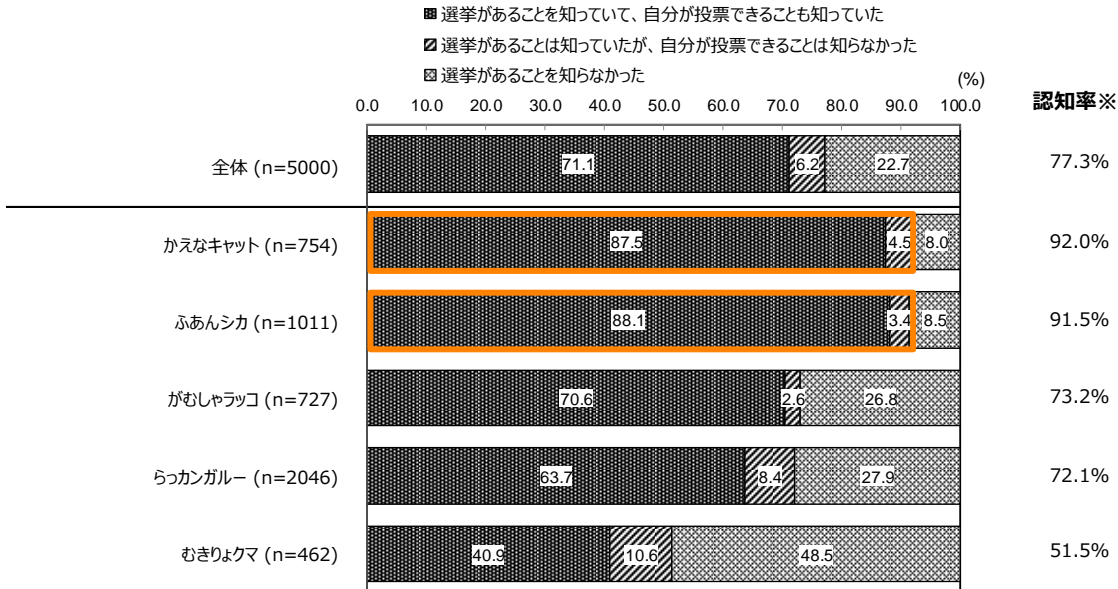
SQ3s1. あなたの年齢をお答えください。(単一回答)



2022年参院選の認知

2022年参院選の認知率※はかえなキャットとふあんシカで高く、9割以上が認知していた。
がむしゃラッコ、らっカンガルーでも7割以上が認知していたが、むきりよクマではようやく半数が認知していた程度である。

Q1. 2022年6月22日に第26回参議院議員選挙（以降、2022年参院選）が公示されました。投票日は2022年7月10日です。
あなたは、2022年参院選について、自分も投票できることを知っていましたか。もっとも当てはまるものをお選びください。（単一回答）



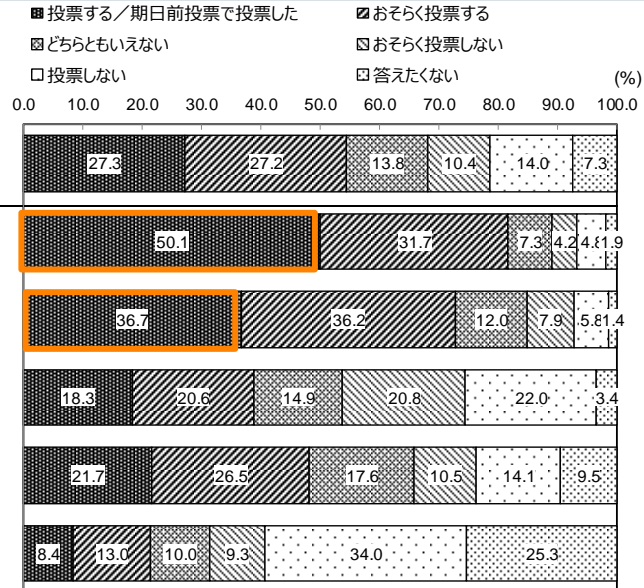
※「選挙があることを知っていて、自分が投票できることも知っていた」と「選挙があることは知っていたが、自分が投票できることは知らなかった」の合計

2022年参院選の投票意向

2022年参院選の投票意向（「投票する/期日前投票で投票した」）はかえなキャットとふあんシカで高く、かえなキャットで5割以上、ふあんシカで約4割が投票意向があった。

一方、むきりよクマの投票意向は1割未満と突出して低い。

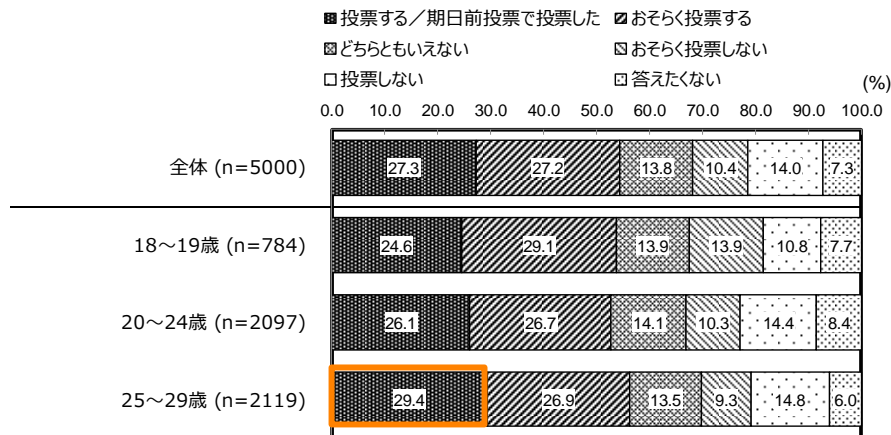
Q2. あなたは、2022年参院選について、投票する予定はありますか。
もっとも当てはまるものを一つお選びください。（単一回答）



(年代別) 2022年参院選の投票意向

2022年参院選の投票意向（「投票する/期日前投票で投票した」）は、「25～29歳」で高い。

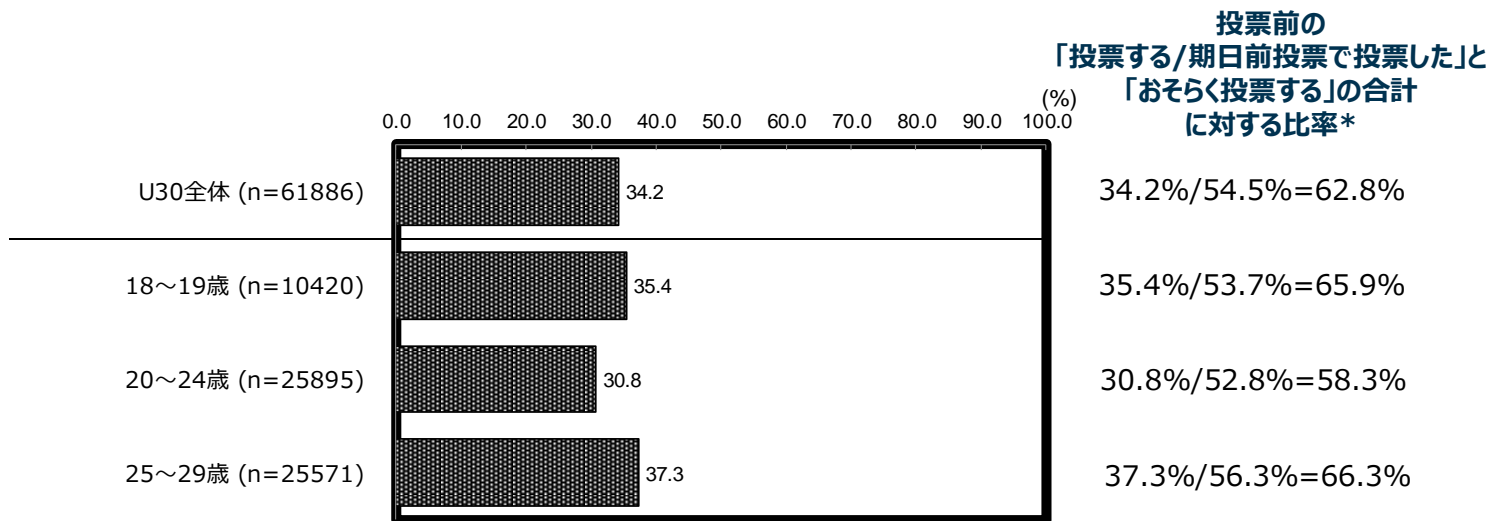
Q2. あなたは、2022年参院選について、投票する予定はありますか。
もっとも当てはまるものを一つお選びください。（単一回答）



第26回 参議院議員通常選挙年齢別投票率

2022年参院選のU30の実際の投票率は34.2%。「18～19歳」と「25～29歳」で高い。

本調査における事前の「投票する/期日前投票で投票した」と「おそらく投票する」の合計と実際の投票率の間に大きな齟齬はないが、「20～24歳」では「投票する/期日前投票で投票した」と「おそらく投票する」の合計に対し実際の投票率は6割以下となっており、他の年代に比べて、「投票する/期日前投票で投票した」と「おそらく投票する」の合計と投票率の差が大きくなっている。「20～24歳」は、事前に投票しようと思っけていても、実際には投票しない人の割合が他に比べて高くなる傾向がある可能性がある。



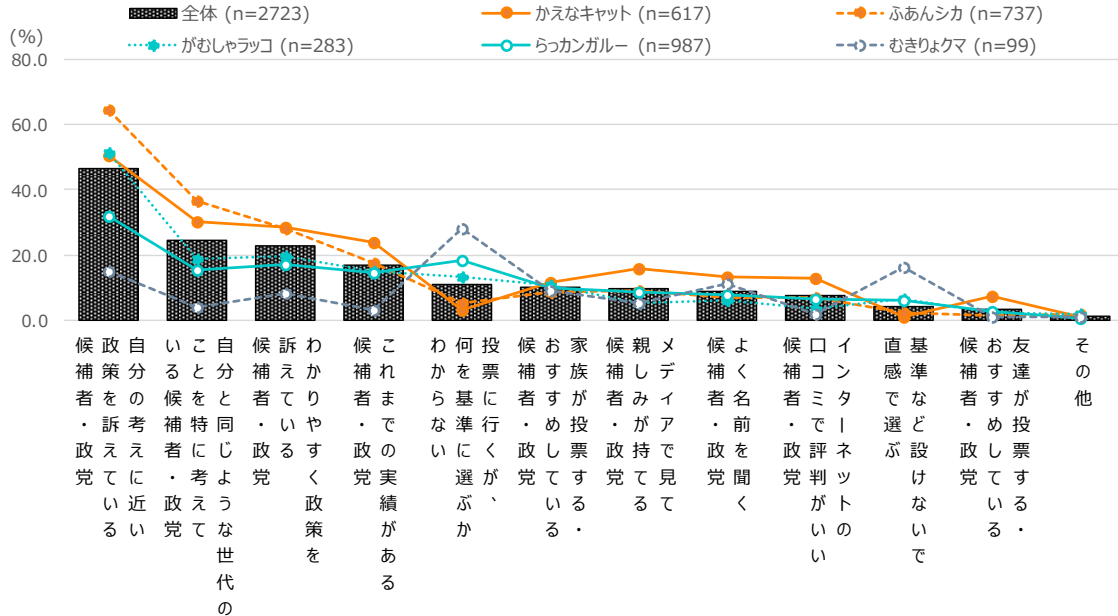
*前頁の調査結果による

投票先を選ぶ基準

かえなキャットは政策重視※¹で選ぶ傾向が強い一方で、知名度※²で選ぶ傾向も強い。ふあんシカは、かえなキャットよりも政策重視で選ぶ傾向が強いが、かえなキャットほど知名度には左右されない。がむしゃラッコは、全体と傾向が似ている。らっカンガルーは、政策は選択基準にはなっておらず、「投票に行くが、何を基準に選ぶかわからない」「基準など設けなくて直感で選ぶ」が高い。むきりよクマは、らっカンガルーの傾向がより極端に出ている。

※1：「自分の考えに近い政策を訴えている」「自分と同じような世代のことを特に考えている」「わかりやすく政策を訴えている」※2：「これまでの実績がある」「メディアで見て親しみが持てる」「よく名前を聞く」「インターネットの口コミで評判がいい」

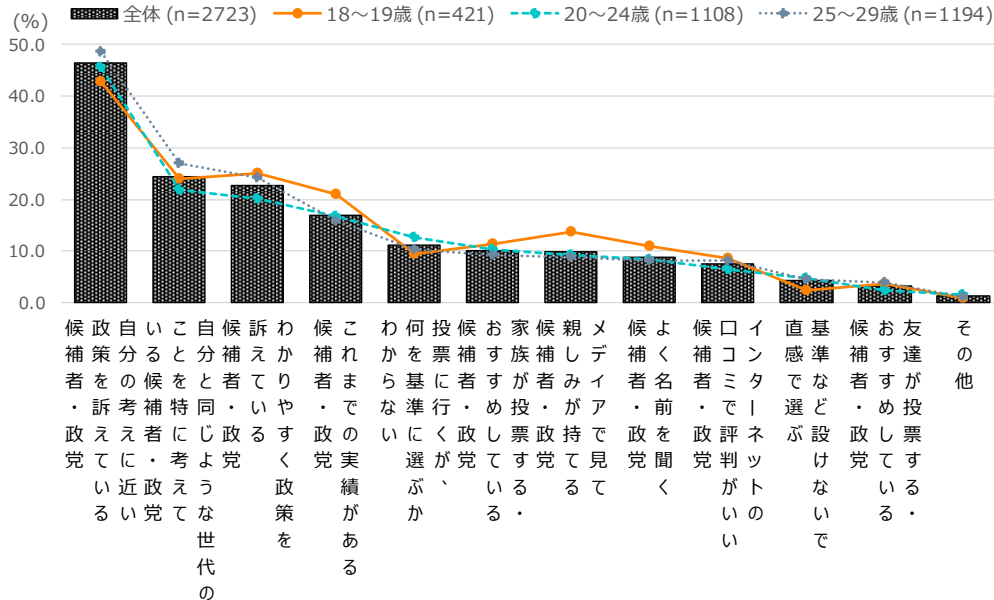
Q3. 「投票する/投票した」、「おそらく投票する」とお答えの方におうかがいします。
あなたは、何を基準に投票先を選びますか。当てはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



(年代別) 投票先を選ぶ基準

年代別にみた投票先を選ぶ基準は、18～19歳では「メディアで見て親しみが持てる候補者・政党」の割合が高い。
25～29歳では「自分と同じような世代のことを特に考えている候補者・政党」の割合が高い。

Q3. 「投票する/投票した」、「おそらく投票する」とお答えの方におうかがいします。
あなたは、何を基準に投票先を選びますか。当てはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

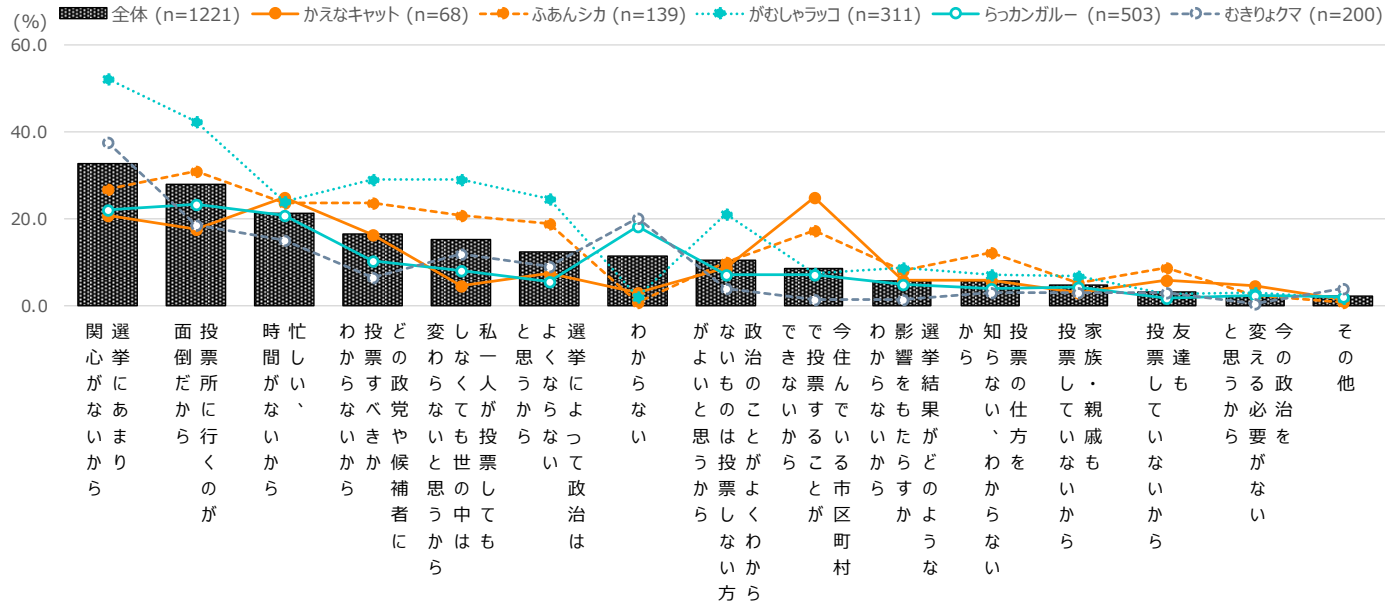


投票しない理由

かえなキヤットの投票しない理由は、「今住んでいる市区町村で投票できないから」の割合が高い。ふあんシカも、「今 住んでいる市区町村で投票できないから」の割合が高いが、加えて「私一人が投票してもなくても世の中は変わらないから」「選挙によって政治はよくなると思うから」と選挙の効力を疑う割合も高い。また、「投票の仕方を知らない、わからないから」の割合が全グループの中で一番高い。がむしゃラッコは、「選挙にあまり関心がないから」「投票所に行くのが面倒だから」の割合、「自分のように政治のことがよくわからないものは投票しない方がよいと思うから」の割合が高い。また、ふあんシカ同様に選挙の効力を疑う人の割合も最も高い。らっカンガルー、むきりよクマも共通して「わからない」を理由に挙げている人が多いのは、関心の低さへの表れと言えそうだ。

Q4. 「おそらく投票しない」、「投票しない」とお答えの方におかがいします。

あなたが2022年参院選で投票しないのはなぜですか。当てはまるものをすべてお選びください。（複数回答）

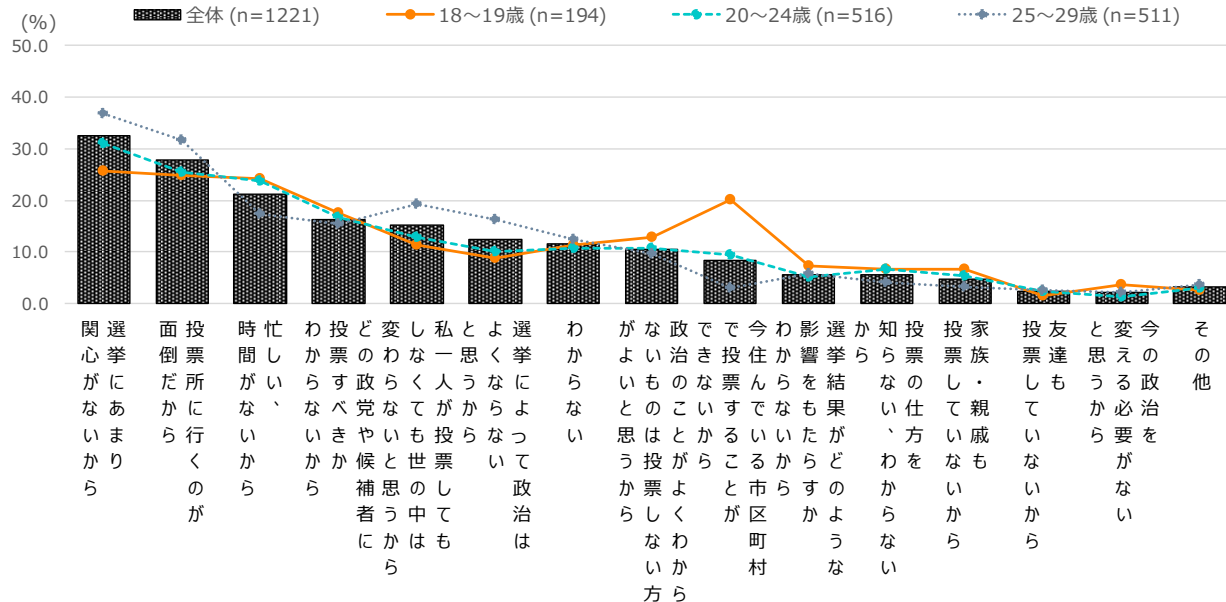


(年代別) 投票しない理由

年代別にみた投票しない理由は、「18～19歳」では「今住んでいる市区町村で投票することができないから」の割合が高い。「25～29歳」では「選挙に興味がないから」、「投票所に行くのが面倒だから」が高く、「私一人が投票してもしなくても世の中は変わらないと思うから」、「選挙によって政治はよくなると思うから」も高い。

Q4. 「おそらく投票しない」、「投票しない」とお答えの方におうかがいします。

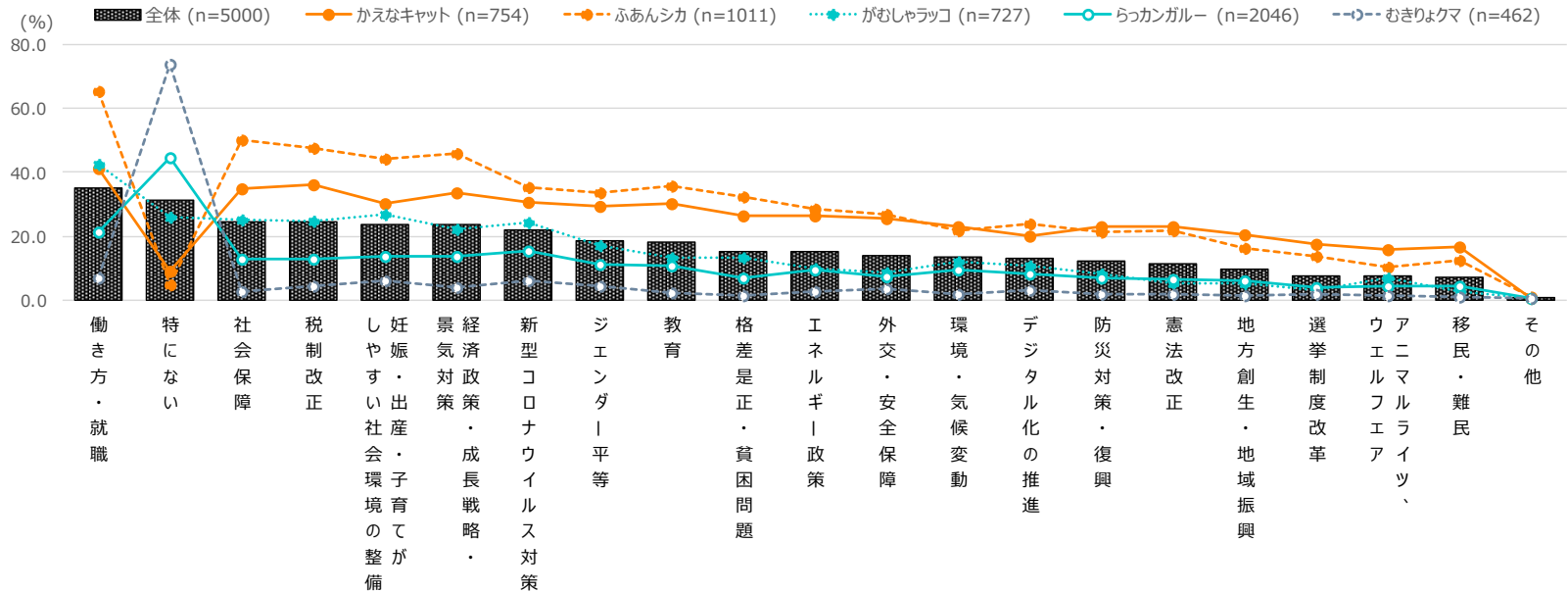
あなたが2022年参院選で投票しないのはなぜですか。当てはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



ふだん関心のあるトピック

かえなキャット、ふあんシカは、全てのトピックについて高い関心を持っている。かえなキャットよりもふあんシカのほうが社会的な関心が高く、特に、「働き方・就職」、「社会保障」、「税制改正」、「妊娠・出産・子育てがしやすい社会環境の整備」、「経済政策・成長戦略・景気対策」において、かえなキャットよりも関心を持つ人が多い。がむしゃラッコは、多くの項目で全体と同程度だが、「働き方・就職」、「妊娠・出産・子育てがしやすい社会環境の整備」は高く、身近なトピックには関心が高いことがうかがえる。らっカンガルー、むきりよクマはトピック全般に関心が低く、「特にない」の割合が高い。むきりよクマでその傾向は顕著である。

**Q5_1. あなたはふだん、次のトピックのうち、何に関心を持っていますか。
当てはまるものをすべてお選びください。（複数回答）**

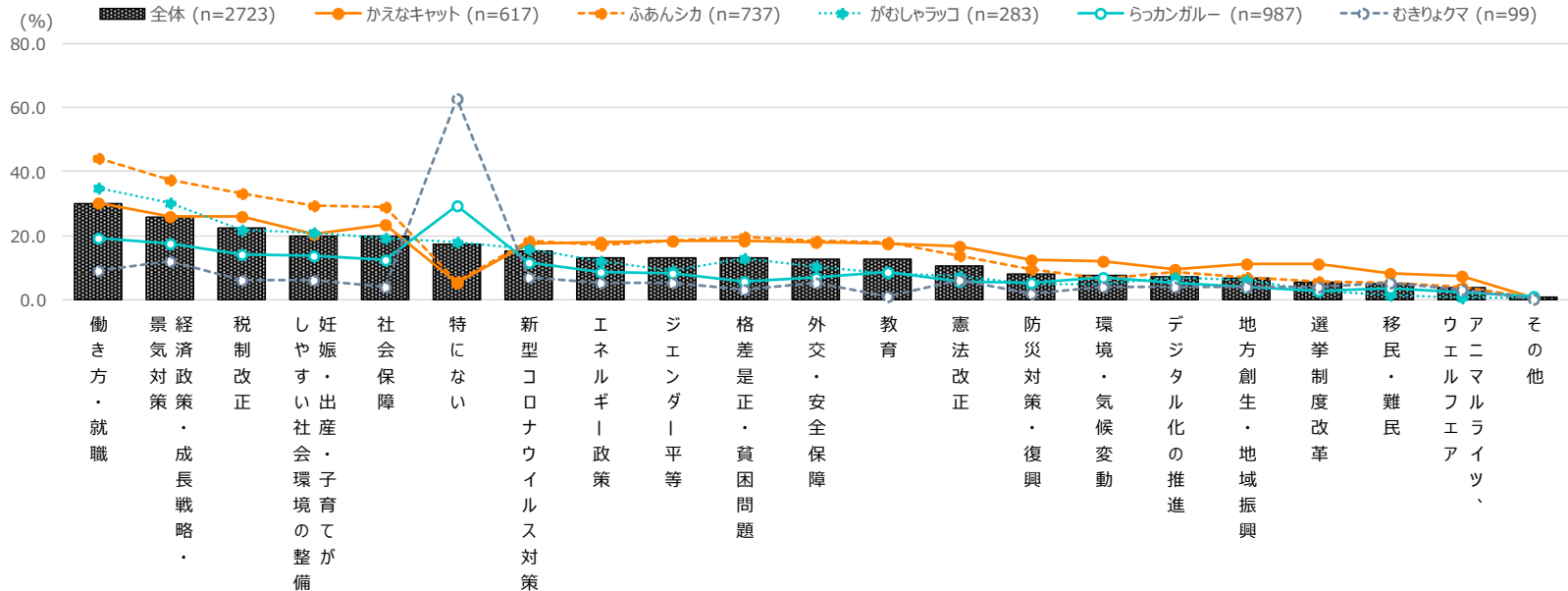


2022年参院選で重視するトピック

2022年参院選で重視するトピックについても聞いたところ、ふだん関心のあるトピックと似た傾向となった。

Q5_2.【「必ず投票する」、「おそらく投票する」とお答えの方に提示】

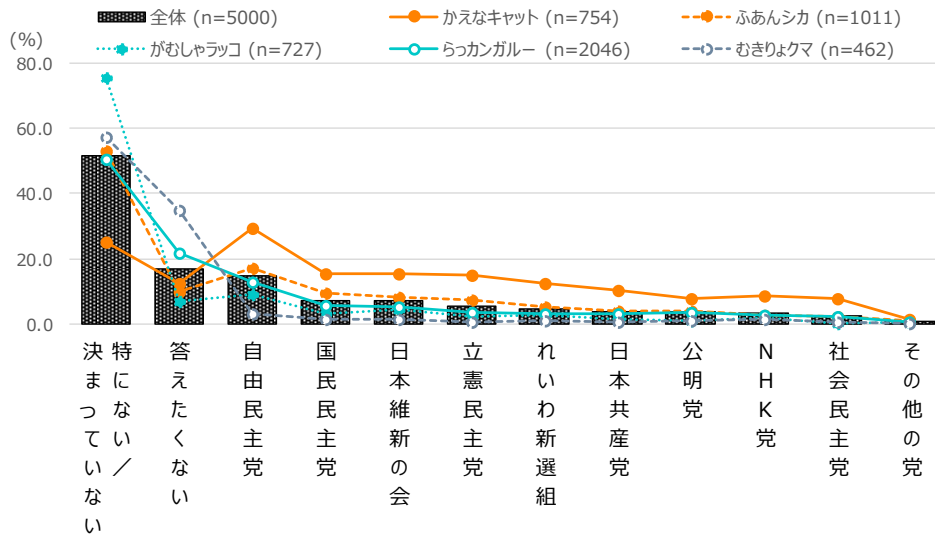
また、あなたが、2022年参院選の投票先を決める時、重視するトピックをすべてお選びください。（複数回答）



ふだん支持している/好感を持っている政党

かえなキャットを除く全てのグループで、「特にない/決まっていない」の割合が最も高い。とりわけがむしゃラッコでは、8割近くの人が「特にない/決まっていない」と答えており突出して高い。一方、かえなキャットは「特にない/決まっていない」と答える人は少なく、支持/好感を持つ政党が明確になっている。政党の中では全てのグループにおいて自民党が一番に支持されている。

Q6_1. あなたはふだん、支持している政党、または、支持しないまでも好感を持っている政党がありますか。(複数回答)



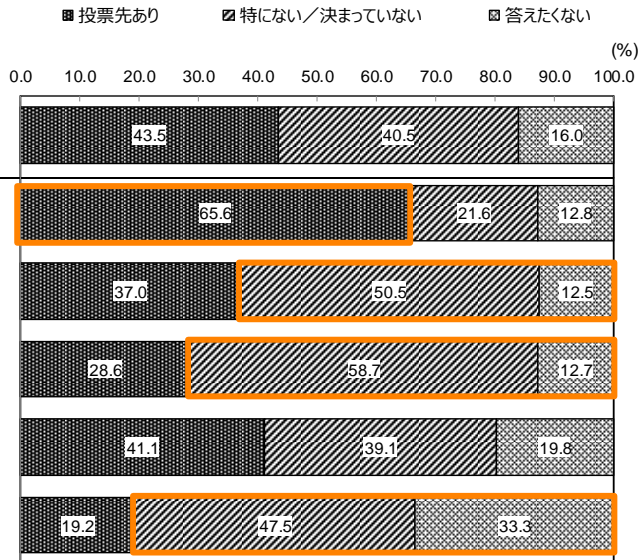
2022年参院選比例代表選挙で投票する政党

2022年参院選比例代表選挙で投票する政党は、かえなキャットでは「投票先あり」の割合が高い。
 ふあんシカ、がむしゃラッコ、むきりよクマでは「特にない/決まっていない」、または、「答えたくない」の割合が高い。

Q6_2.【「必ず投票する」、「おそらく投票する」とお答えの方に提示】

また、あなたが2022年参院選の比例代表選挙で投票するのは何党、または何党の候補者ですか。

有意に高いセルを橙枠囲み

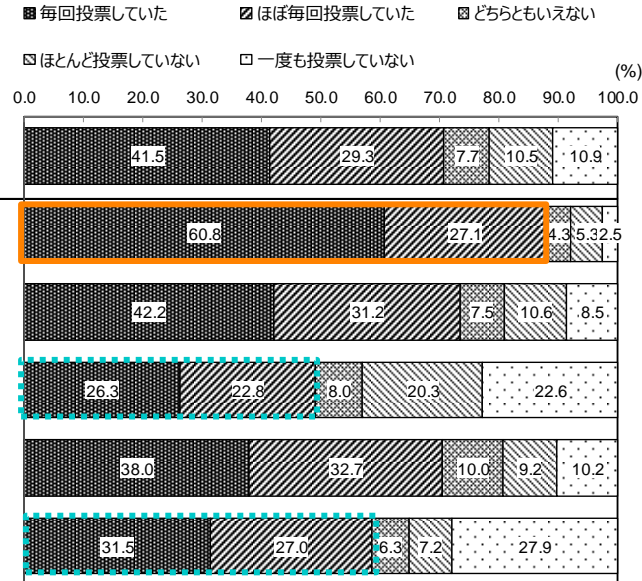


投票先あり										特にない/決まっていない	答えたくない
自民	国民	維新	立民	れいわ	共産	公明	NHK	社民	その他		
15.5	6.1	5.0	4.6	3.5	2.6	2.2	1.8	1.3	0.9	40.5	16.0
23.2	7.9	7.3	7.9	6.5	4.2	3.1	2.8	1.8	1.0	21.6	12.8
11.9	6.6	4.6	4.9	3.3	1.8	1.6	1.1	0.4	0.8	50.5	12.5
9.9	4.2	4.9	1.8	1.8	1.8	1.4	2.1	0.0	0.7	58.7	12.7
15.7	5.7	4.0	3.4	2.4	2.7	2.5	1.6	2.1	0.9	39.1	19.8
7.1	1.0	5.1	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	47.5	33.3

過去の投票できる選挙での投票行動

過去の選挙での投票行動は、かえなキャットで投票していた※割合が高く、がむしゃラッコとむきりよクマで割合が低い。
ふあんシカとらっカンガルーは、全体と傾向が似ており、特筆すべきことはない。

Q8. 2022年参院選以前に、あなたが投票できる選挙が実施されたとお答えの方にうかがいます。
あなたはこれまで、あなたが投票できる選挙で投票しましたか。(単一回答)

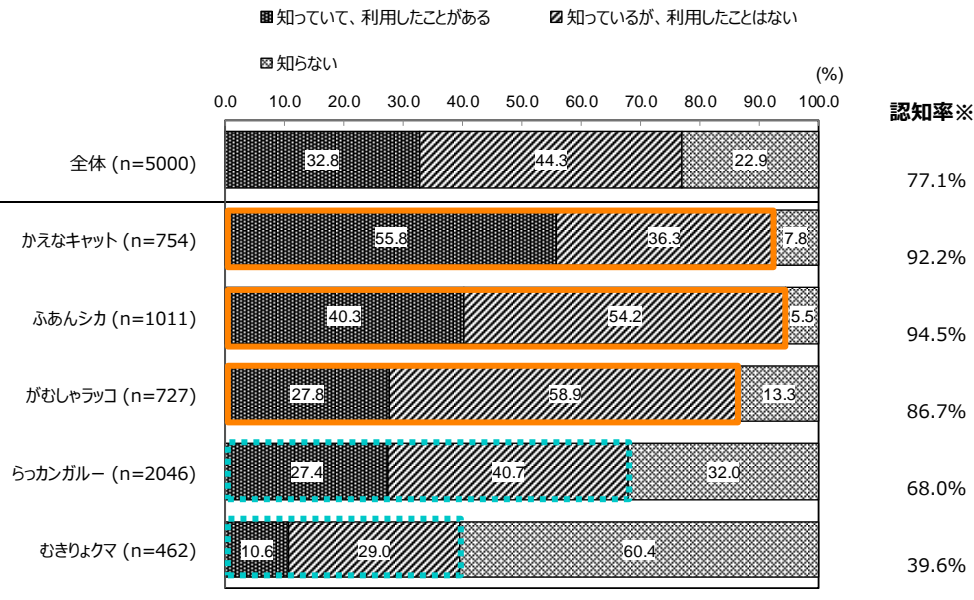


※「毎回投票していた」と「ほぼ毎回投票していた」の合計

期日前投票の認知/利用

期日前投票の認知率※は、かえなキャット、ふあんシカ、がむしゃラッコで高く、らっかんガルー、むきりよクマで低くなっている。とりわけむきりよクマでは、6割以上が期日前投票を知らないと答えている。

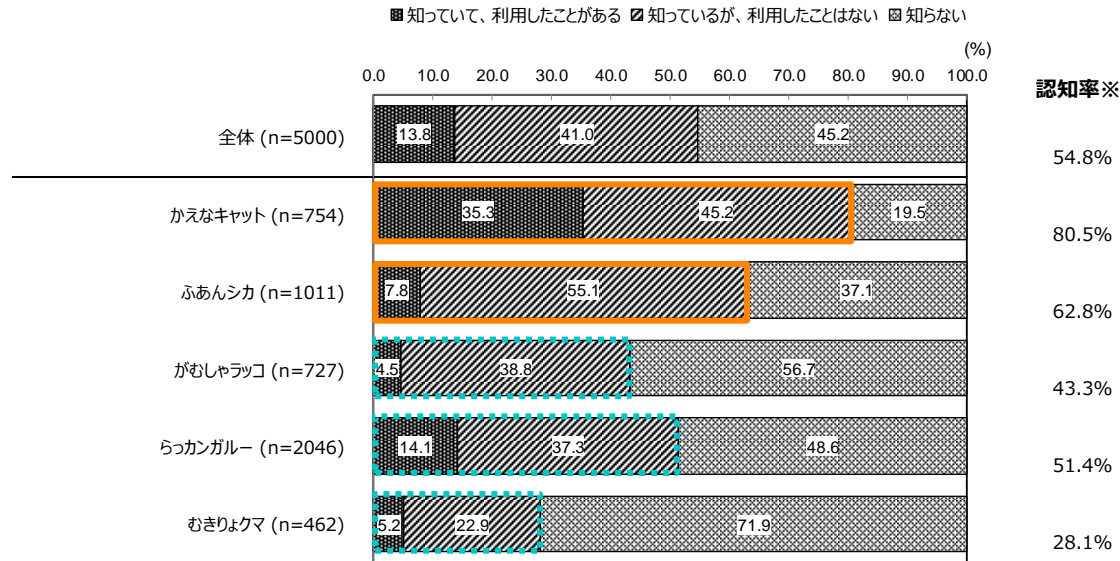
Q9. 投票日当日に予定がある方は、投票日の前に期日前投票所で投票することができます（期日前投票といいます）。あなたは、期日前投票をご存じでしたか。（単一回答）



不在者投票の認知/利用

不在者投票の認知率※は、かえなキャット、ふあんシカで高く、がむしゃラッコ、らっカンガルー、むきりよクマでは低い。特にむきりよクマは著しく低くなっている。

Q10. 選挙期間中、他の市町村に滞在している方、病院等の施設にいる方、身体障害等の要件に該当する方は、不在者投票をすることができます。あなたは、不在者投票をご存じでしたか。(単一回答)



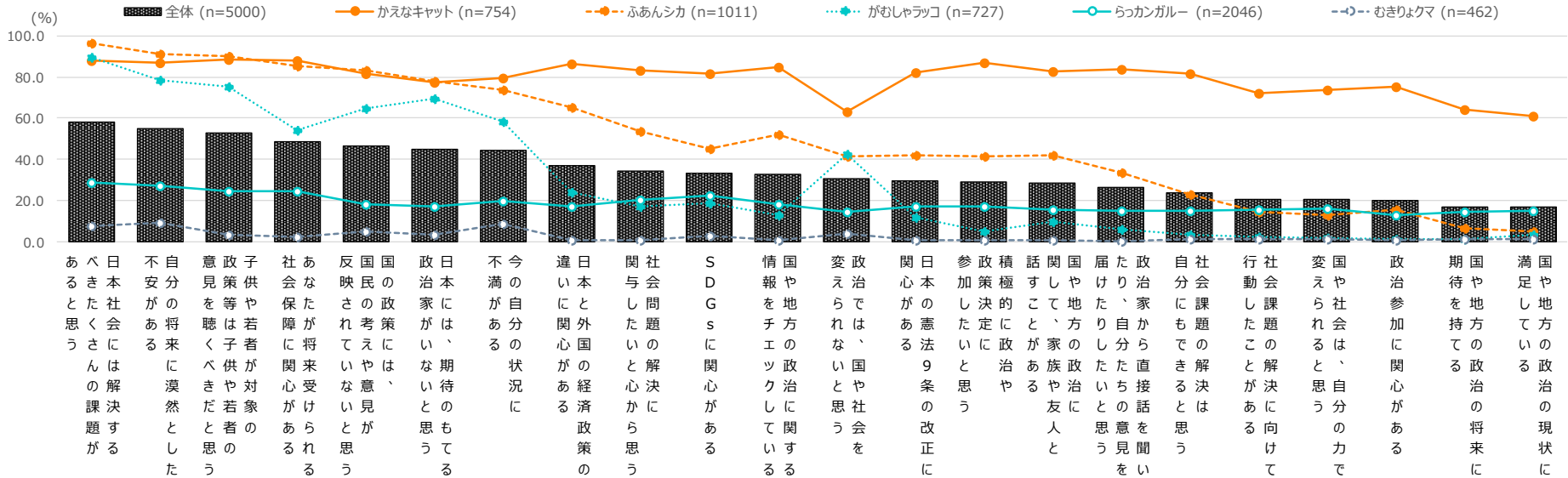
※ 「知っていて、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計

社会課題・政治に関する意識・行動

かえなキヤットは、社会課題や政治に関する意識が高く、政治参加に対する意欲も高い。ふあんシカは、かえなキヤットについて社会課題全般に関心を有するが、「国や社会は、自分の力で変えられると思う」「政治参加に関心がある」等、自己効力感や政治参加に関する項目については低くなっている。がむしゃラッコは、社会に対して一定の課題認識をもっているが、「日本には、国や社会を変えてくれると期待のもてる政治家がいないと思う」、「政治では、国や社会を変えられないと思う」とする割合は高く、政治に対する期待が薄いことがうかがえる。らっかんガルー、むきりよクマは、社会課題や政治に関する意識は低い。特にむきりよクマは顕著で、ほとんどの項目に対して当てはまらないと答えている。

Q11. あなたのお考えや行動について、以下の項目がどの程度当てはまるかを教えてください。（複数回答）

※「非常に当てはまる」「まあ当てはまる」の合計



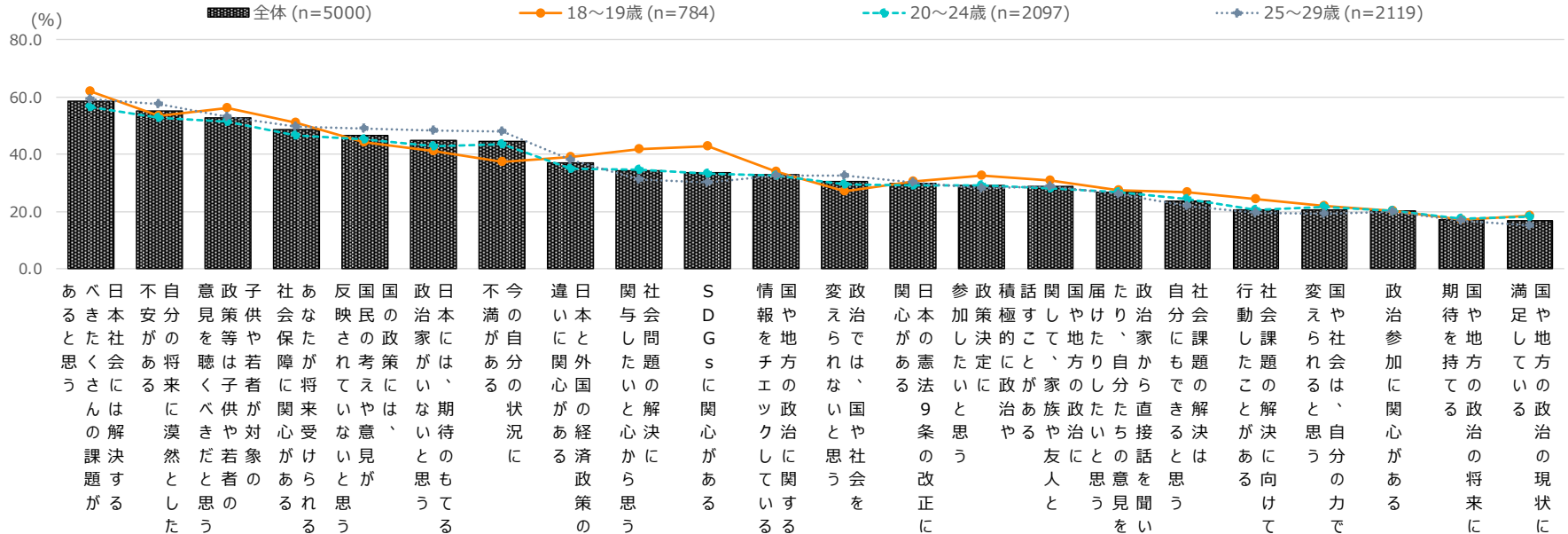
(年代別) 社会課題・政治に関する意識・行動

年代別にみた社会課題・政治に関する意識・行動は、18～19歳では社会課題関連の項目※1が高く、25～29歳では、国や政治、将来に対する不安や不満に関連する項目※2が高い。

※1：「日本社会には解決するべき多くの課題があると思う」、「環境や貧困、ジェンダー、不平等といった社会問題の解決に関与したいと心から思う」、「SDGsに関心がある」、「将来の国や地域の担い手として積極的に政治や政策決定に参加したいと思う」、「社会課題の解決は自分にもできると思う」、「社会課題の解決に向けて行動したことがある」 ※2：「自分の将来に漠然とした不安がある」、「国の政策には、国民の考えや意見が反映されていないと思う」、「日本には、国や社会を変えてくれると期待もてる政治家がいないと思う」、「今の自分の状況に不満がある」、「政治では、国や社会を変えられないと思う」

Q11. あなたのお考えや行動について、以下の項目がどの程度当てはまるかをお答えください。（複数回答）

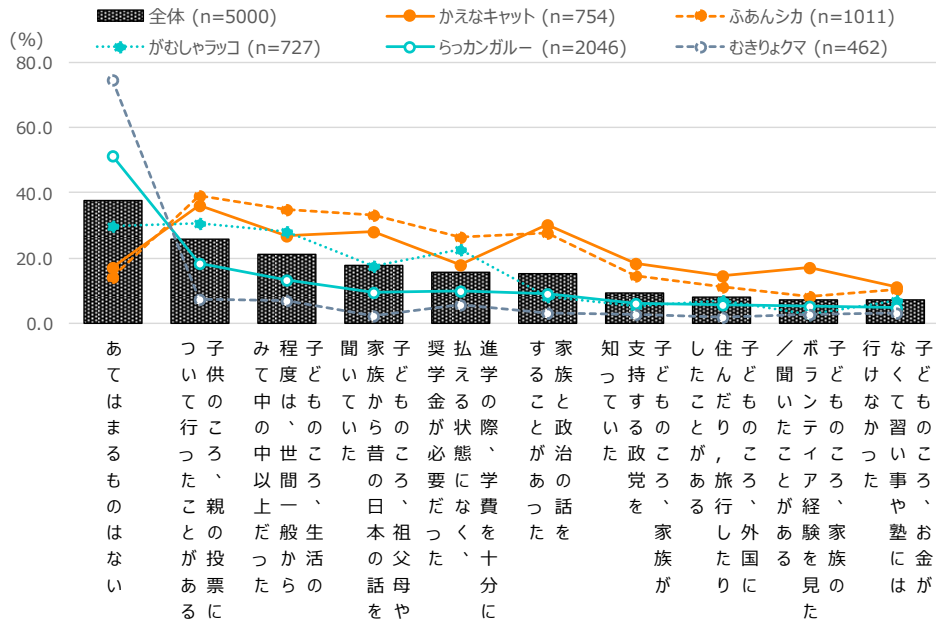
※「非常に当てはまる」「まあ当てはまる」の合計



出身家庭の状況

かえなキヤット、ふあんシカは、「親の投票について行ったことがある」、「家族と政治の話をするがあった」、「家族が支持する政党を知っていた」の割合が高く、家庭の中で政治を意識する機会が高かったことがうかがわれる。がむしゃラッコは、「親の投票について行ったことがある」の割合は高いものの、その他の家庭のなかでの政治を意識する機会についての割合は高くない。らっカンガルー、むきりよクマは、「あてはまるものはない」と答える人の割合の高さが際立つ。

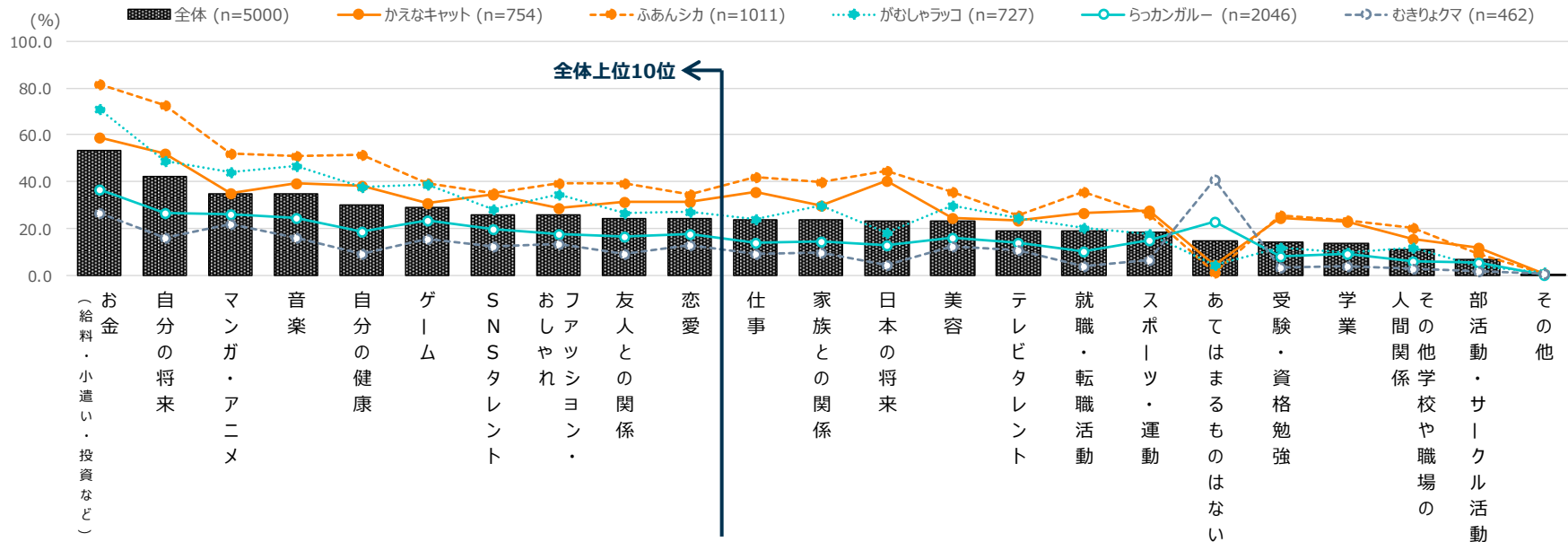
Q12. あなたの出身家庭について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



関心を持っていること

かえなキャット、ふあんシカ、がむしゃラッコは、いずれも関心の幅が広く、多くの項目で全体よりも高くなっている。ただし、「日本の将来」については、かえなキャット、ふあんシカは高いものの、がむしゃラッコはかなり低くなっている。らっかんガルー、むきりよクマは、全般に関心が低く、「あてはまるものはない」が、突出して高いのが特徴である。

Q13. あなたが現在、関心を持っていることについて、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



関心を持っていること 順位

むきりよクマを除くすべてのグループで「お金」「自分の将来」がトップ。
かえなキャット、ふあんシカでは、「日本の将来」が上位である一方で、その他のグループでは10位未満。

小数点第二位以降でも同率の場合、調査票の項目の順に記載

全体 (n=5000)		
1	お金*	53.2
2	自分の将来	42.0
3	マンガ・アニメ	34.9
4	音楽	34.6
5	自分の健康	30.2
6	ゲーム	29.3
7	SNSタレント**	25.7
8	ファッション・おしゃれ	25.7
9	友人との関係	24.2
10	恋愛	24.1
11	仕事	23.9
12	家族との関係	23.8
13	日本の将来	23.4
14	美容	23.0
15	テレビタレント***	19.1
16	就職・転職活動	18.7
17	スポーツ・運動	18.7
18	あてはまるものはない	14.7
19	受験・資格勉強	14.3
20	学業	13.7
21	その他の人間関係****	11.0
22	部活動・サークル活動	6.7
23	その他	0.6

かえなキャット (n=754)		
1	お金*	59.2
2	自分の将来	52.0
3	日本の将来	40.5
4	音楽	39.3
5	自分の健康	38.5
6	仕事	35.5
7	マンガ・アニメ	35.3
8	SNSタレント**	34.5
9	友人との関係	31.4
10	恋愛	31.2
11	ゲーム	30.8
12	家族との関係	30.0
13	ファッション・おしゃれ	28.6
14	スポーツ・運動	27.5
15	就職・転職活動	26.5
16	受験・資格勉強	24.5
17	美容	24.3
18	テレビタレント***	23.3
19	学業	22.7
20	その他の人間関係****	15.8
21	部活動・サークル活動	11.7
22	あてはまるものはない	4.6
23	その他	0.7

ふあんシカ (n=1011)		
1	お金*	81.9
2	自分の将来	72.6
3	マンガ・アニメ	52.1
4	自分の健康	51.3
5	音楽	51.2
6	日本の将来	44.5
7	仕事	41.7
8	家族との関係	39.9
9	ゲーム	39.5
10	ファッション・おしゃれ	39.3
11	友人との関係	39.3
12	美容	35.6
13	就職・転職活動	35.4
14	SNSタレント**	34.9
15	恋愛	34.6
16	スポーツ・運動	26.3
17	テレビタレント***	25.7
18	受験・資格勉強	25.7
19	学業	23.4
20	その他の人間関係****	20.3
21	部活動・サークル活動	8.9
22	あてはまるものはない	1.2
23	その他	0.9

がむしゃラッコ (n=727)		
1	お金*	71.0
2	自分の将来	48.8
3	音楽	46.5
4	マンガ・アニメ	44.2
5	ゲーム	38.8
6	自分の健康	38.0
7	ファッション・おしゃれ	34.4
8	家族との関係	29.7
9	美容	29.7
10	SNSタレント**	28.3
11	恋愛	27.0
12	友人との関係	26.4
13	テレビタレント***	24.8
14	仕事	24.2
15	就職・転職活動	20.2
16	日本の将来	18.0
17	スポーツ・運動	17.5
18	その他の人間関係****	11.8
19	受験・資格勉強	11.6
20	学業	9.6
21	あてはまるものはない	4.5
22	部活動・サークル活動	4.1
23	その他	1.1

らっかんガルー (n=2046)		
1	お金*	36.5
2	自分の将来	26.7
3	マンガ・アニメ	26.0
4	音楽	24.6
5	ゲーム	23.4
6	あてはまるものはない	22.7
7	SNSタレント**	20.0
8	自分の健康	18.8
9	恋愛	17.8
10	ファッション・おしゃれ	17.6
11	友人との関係	16.8
12	美容	16.3
13	スポーツ・運動	14.9
14	家族との関係	14.7
15	テレビタレント***	14.1
16	仕事	13.9
17	日本の将来	13.0
18	就職・転職活動	10.4
19	学業	9.3
20	受験・資格勉強	8.3
21	その他の人間関係****	6.1
22	部活動・サークル活動	5.7
23	その他	0.4

むきりよクマ (n=462)		
1	あてはまるものはない	41.1
2	お金*	26.4
3	マンガ・アニメ	21.6
4	音楽	16.2
5	自分の将来	15.8
6	ゲーム	15.6
7	ファッション・おしゃれ	13.2
8	恋愛	13.0
9	SNSタレント**	12.1
10	美容	12.1
11	テレビタレント***	10.6
12	家族との関係	10.0
13	友人との関係	9.3
14	仕事	9.3
15	自分の健康	9.1
16	スポーツ・運動	6.5
17	日本の将来	4.3
18	就職・転職活動	3.9
19	学業	3.7
20	受験・資格勉強	3.2
21	その他の人間関係****	3.0
22	部活動・サークル活動	1.9
23	その他	0.4

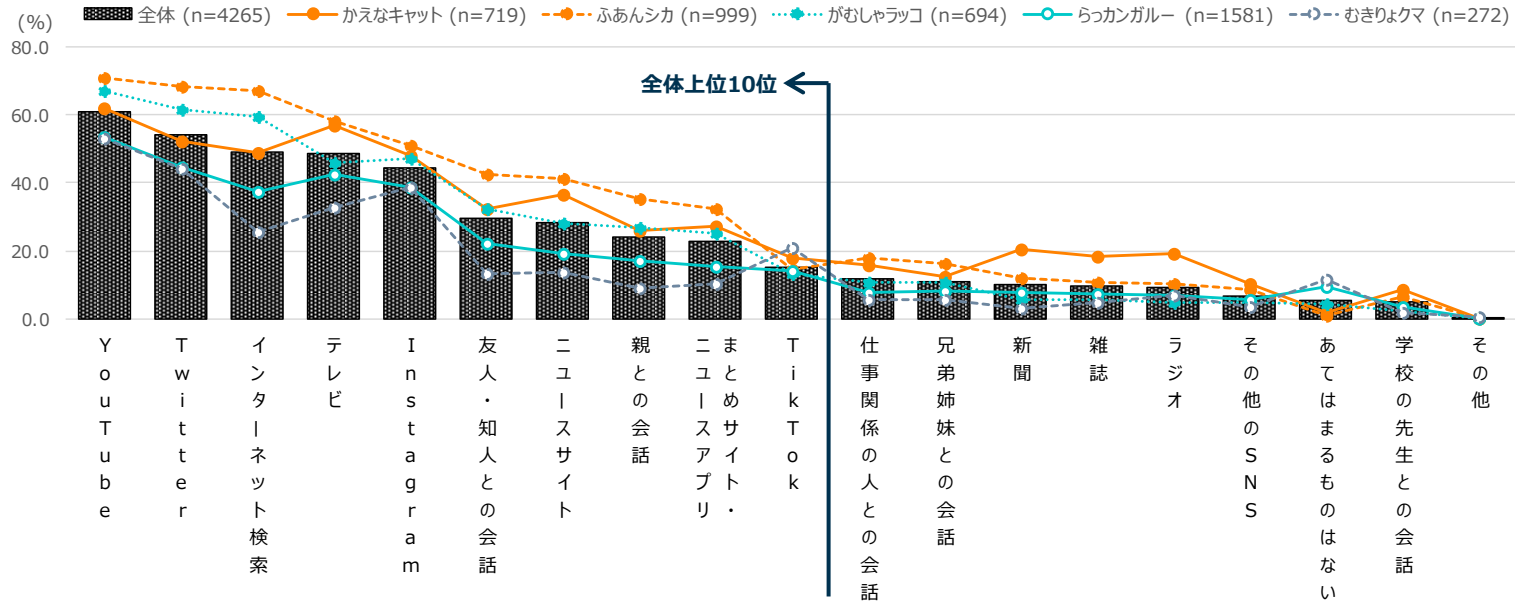
*お金（給料・小遣い・投資など）、**SNSタレント（YouTuber、Vtuber、Instagramer、TikToker等）、***テレビタレント（俳優、芸人、アイドル等）、****その他学校や職場の人間関係

関心を持っていることの情報収集源

情報収集源のトップ5は、全グループで共通する。

全体の上位10項目のうちの多くの項目でかえなキャット、ふあんシカ、がむしゃラッコで高く、らっカンガルー、むきりよクマで低いが、「TikTok」はむきりよクマで高い。ふあんシカは、満遍なく高い。

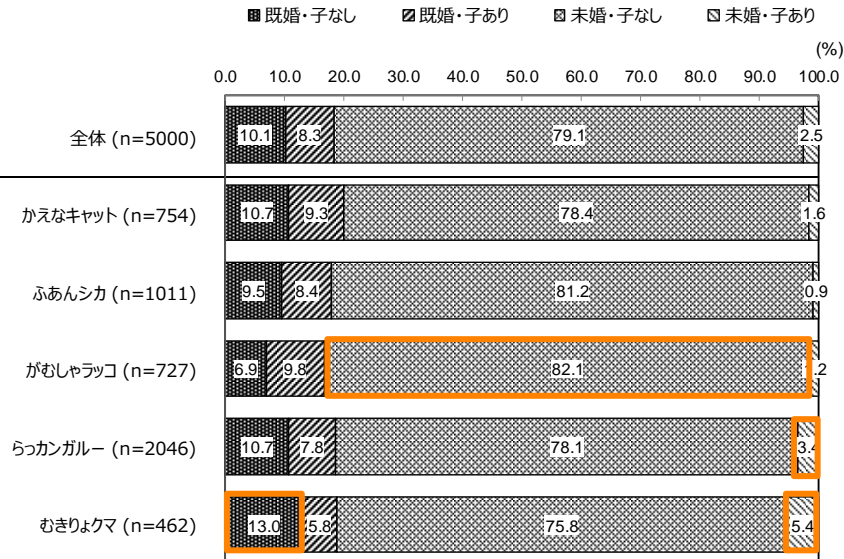
Q14. あなたが現在、関心を持っていることに関する情報収集をする際の情報源について、
あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



婚姻状況

がむしゃラッコは「未婚・子なし」の割合が高く、むきりよクマは「既婚・子なし」の割合が高い。
らっかんガルー、むきりよクマは「未婚・子あり」の割合が高い。

Q15. あなたの婚姻状況について、あてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

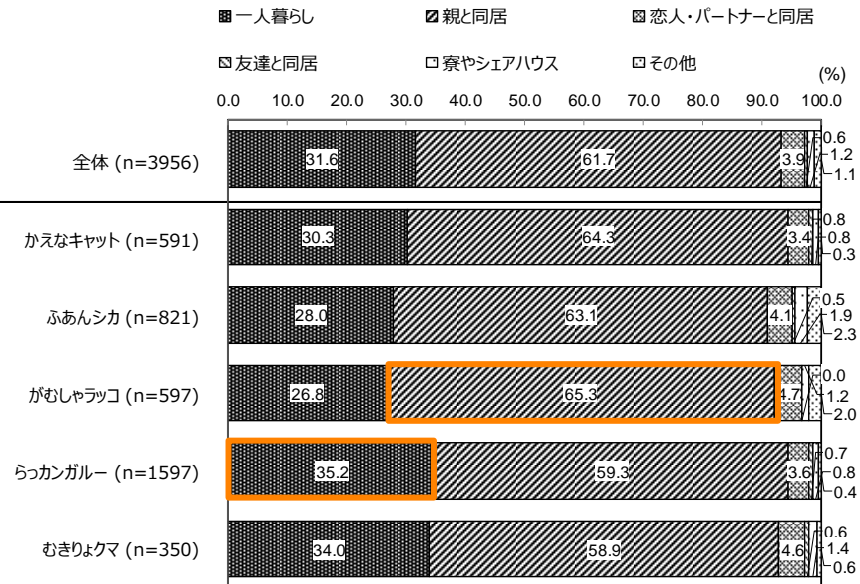


世帯構成

「未婚・子なし」の回答者の世帯構成は、がむしゃラッコで「親と同居」の割合が高く、らっカンガルーで「一人暮らし」の割合が高い。

Q16. あなたの世帯構成について、あてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

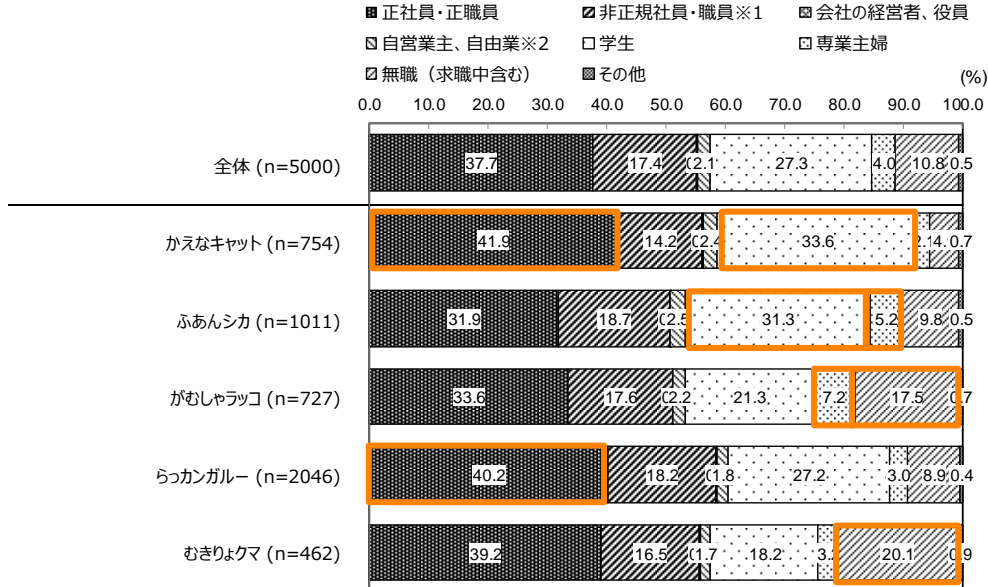
（Q15で「未婚・子なし」を選択した回答者のみ）



職業

かえなキヤットでは、「正社員・正職員」と「学生」の割合が高い。ふあんシカでは「学生」と「専業主婦」の割合が高い。がむしゃラッコでは、「専業主婦」、「無職」の割合が高い。らっカンガルーは「正社員・正職員」の割合が高い。むきりよクマでは、「無職」の割合が高い。「非正規」の割合が全体より高いグループはない。

Q17. あなたの職業について、あてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

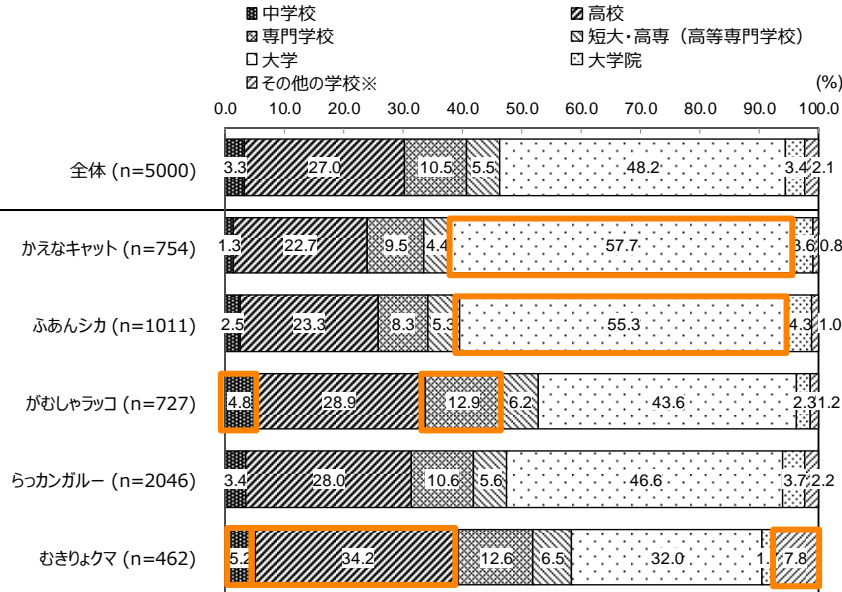


※1：パート、アルバイト（学生アルバイトを除く）、契約社員、嘱託社員、派遣会社の派遣社員
 ※2：会社の経営者、役員、自営業主、自由業、フリーランス、クラウドワーカー、その他

最終学歴

最終学歴は、かえなキャットとふあんシカで「大学」の割合が高い。
がむしゃラッコは、「中学校」と「専門学校」、むきりよクマは「中学校」、「高校」、「その他の学校」の割合が高い。

Q18. あなたの最終学歴（現在学生の方は、在学中の学校）について、あてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

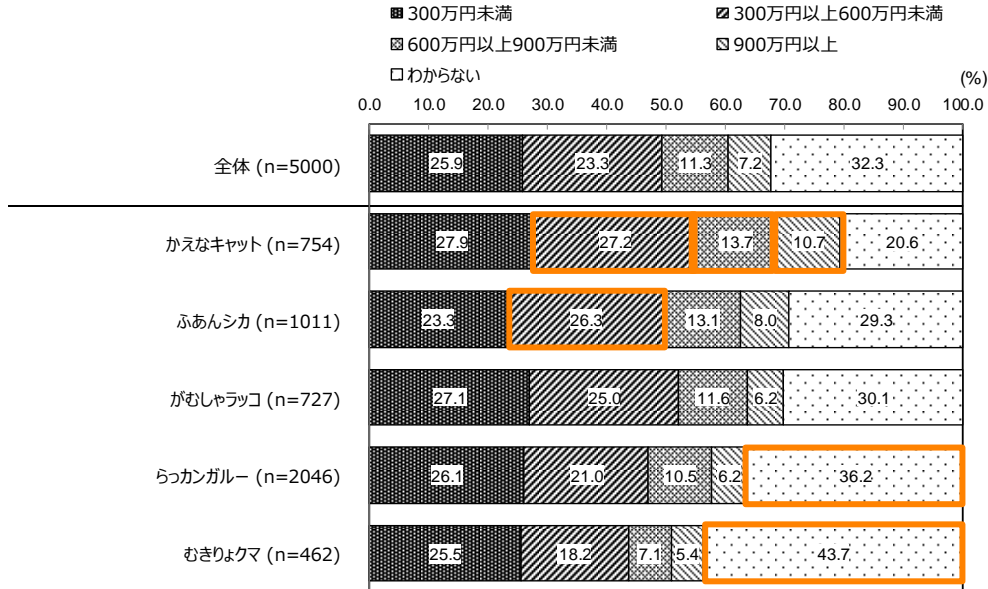


※高等専修学校、各種学校など

世帯年収

かえなキャットでは、300万円以上の割合が高い。ふあんシカでは、「300万円以上600万円未満」の割合が高い。らっかんガルー、むきりよクマでは「わからない」の割合が高い。

Q19. 前年、令和3年（2021年）のあなたの世帯の世帯年収について、あてはまるものをひとつお選びください。
あなたの世帯とは、普段あなたと住居を共にされ、かつ、生計を同じくされている方（々）を指します。（単一回答）



世帯年収（「わからない」を除く）

世帯年収を「わからない」と回答した人を除いて集計した場合、かえなキャットでは、「900万円以上」の割合が高い。らっかんガルー、むきりよクマでは「300万円未満」の割合が高い。

Q19. 前年、令和3年（2021年）のあなたの世帯の世帯年収について、あてはまるものをひとつお選びください。
あなたの世帯とは、普段あなたと住居を共にされ、かつ、生計を同じくされている方（々）を指します。（単一回答）

